WASON
HQ
1104
J74+

Jan. 1889
no. 1-

女學雜誌

一冊六錢
當府內無郵稅

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年(第百四拾六號)一月廿六日發

社説
女子と宗教 第四(儒教)

論説
印度女子教育の景況(其二)(ラマバイ夫人)○飲食物の說附酒と煙草の害(其四)(津田仙)

批評
もしや艸紙に就て(其二)(不知菴主人)○大日本婦人教育會雜誌

叢話
詩歌文章○裸胡蝶○大丈夫の質朴○英米の女權○婿擇み○萬國赤十字社大會の盛(八)(石黒忠悳)

小説
心の浮畫

佳傳
米洲合衆國次回大統領夫人○不破淸子の履歷

寄書

新報
歌御會始○高等女學校擴張○官立學校の月謝増加せらる○批評及びあらみ○衣通姫○小說家の退學○印度賣淫禁止論の運動○其他數件

外報
英國女王に書を上る

小供談
蜘蛛のはなし

附録
女子教育の困難(矢田部良吉)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1124
J74+

Jan.
1889
no 14..

女學雜誌

一冊六錢
當府內無郵稅

版權所有
各土曜日出版

明治廿二年(第百四拾六號)一月廿六日發

社説
女子と宗教 第四(儒教)

論説
印度女子教育の景况(其二)(ラマバイ夫人)○飲食物の說附酒と烟草の害(其四)(津田仙)

批評
もしや艸紙に就て(其二)(不知菴主人)○大日本婦人教育會雜誌

叢話
詩歌文章○裸胡蝶○大丈夫の質朴○英米の女權○婿擇み○萬國赤十字社大會の盛(八)(石黑忠悳)

小説
心の浮藷

佳傳
米洲合衆國次回大統領夫人○不破淸子の履歴

寄書

新報
歌御會始○高等女學校擴張○官立學校の月謝增加せらる○批評及びあらみ○衣通姫○小說家の退學○印度賣淫禁止論の運動○其他數件

外報
英國女王に書を上る

小供談
蜘蛛のはなし

附録
女子教育の困難(矢田部頁吉)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 146. JANUARY 26TH, 1889.

EDITORIAL:— Woman and Religion. No. IV.

LEADING ARTICLES:— Woman's Education in India. by P. S. Ramabai. Food and Drink. (Tobacco and Alcohol). by Mr. S. Tsuda.

CRITICAL NOTES:— "About Moshiya zoshi." "Magazine Issued from the Japanese Ladies Educational Society."

MISCELLANIES:— "Literary Productions." "The Kocho." "Simplicity of Great Men." "Woman's Rights in England and America." "Selection of Husband." "At the Great Conference of the Red Cross-Society."

NOVELS:— "Fancy's Showbox."

BIOGRAPHIES. Mrs. Harrison and Mrs. Morton.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

元と通信女學のみを購讀わりたる御方には以後女學雜誌を配達いたす儀に候

●京濱間女學校職員表（二十二年一月調）（其五）

○東京高等女學校（神田區一ツ橋外）　生徒現數　百五十六人

校長　矢田部良吉　教頭兼幹事　能勢榮

教諭　神田乃武○爪生繁子○中村秋香○武村千佐子○平田盛胤○坪井玄道○長谷川方大

囑托　小島憲之○上眞行○辻則承○染谷徳五郎○木下邦昌○旭山春子○林蝶子○皿城久子○田村孝子

傭　イザベラ、プリンス○メリー、プリンス○植村花亭○加藤貞子○竹内豐子○幸田延子

○高等師範學校女子部（神田區萬世橋外）　生徒現數　六十人

教頭　高嶺秀夫

教員　南摩綱紀○瀧井清二○櫻井房記○中川謙二郎○谷川友太郎○關宮孝季○國府寺新作○磯野徳三郎○千本福隆○野口保興○西松二郎○大内健○富田功太郎○岡五郎○田所貢○坪井玄道○小山正太郎○大和田建樹○田中敬一○須田小五郎○奥好義○上野銀子○福田米子○市村衛次郎

雇　セー、エン、シーモール○エー、デー、ストレート

○成立學舍女子部（神田區駿河台袋町）

設立　明治二十年四月一日　生徒現數　二百名

校長　中原貞七　幹事　秋元兼思

教員　エフ、ダブルユー○伊東まさ子○今井鉄太郎○渡邊男子○樫村清徳○梯々子○棚橋絢子○田中琴松子○坪内雄藏○土子金四郎○中原貞七○中島雅子○楢村米吉○長嶺げん子○植村花亭子○宇川盛三郎○山崎鑑子○藤川菜子○香坂虎子○伊藤左仙子○秋元兼思○赤堀峰吉○赤堀きく子○鮫島晋○齋藤田鶴子○木村作子○三島毅○宮本仲○水野八重子○平田玉子○鈴木弘恭○石原信明○關口壽三郎○高田小一郎○三宅山子○中原雅郎○マツカレー

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百四十六號　明治二十二年一月廿六日發兌

社説

○女子と宗敎、四儒敎。(上)。

儒敎とは孔子の敎なり、其道四書六經に精わし。孔子死してより今まに至る大凡そ二千有四百年、此間だに三四の大儒東西に現はれ出で、各自其思ふまゝに解釋して孔子の敎を説明したり、而して此を彼に較べて其双方の是非を考ふるに、眞に是れ一優一劣にして容易に上下すべからず、故よ吾人は總ての解釋を頼ず、直ちに孔子の言を聞て孔子の意を解するを善とする也。

孔子の言諸書に遺れり、然れども其尤も確かなるは四書六經にして、四書六經は實に儒敎の神聖なる經典たり、其一字一句、義に於て決して誤謬なしと信仰せらるゝもの也。蓋し大學は孔子の遺書にして三千の徒其の説を聽たるの言なり、中庸は孔門傳授の心法にして子思之を筆して孟子に與へたるものなり、論語は門弟子夫子の敎を受たるの言にして有子曾子の門人之を錄せりと傳す、孟子は即はち孔子之を曾子に傳へ曾子之を子思に傳へ子思之を孟子に傳へ孟子之を受て仲尼の意を述たるもの也、孝經は曾子侍べつて孔子に聞けるの敎へにして昔し男女七歳にして皆な之を學びたるもの也、詩は素と人心物に感じて言に形はしたるの吟を集めたるもの孔子之を刪りて万世に敎らするの敎と認ためたるもの也、書は元と二帝三王天下を治むるの大經大法を錄す孔子之を叙して聖人の德を傳ゆるもの也、易は性命の理に順がひ幽明の故に通じ人事万物の變化を敎ゆ孔子尤も謹んで之れを學び且つ之を序で世に遺したるもの也、春秋は即はち孔子を知るの書にして孔子若し南面して世を治れば必ず斯の如くに賞罰するとを示したるもの也、禮は天に繼ぎ極を立るの道にして孔子之を傳し世に垂れて敎を立たるの嚴則なり。故に、大學論語孝經に於て孔子の説を聞く、中庸孟子に於て孔子の傳ふる所を見る、易經書經に於て孔子の學ぶ所ろを知る、詩經禮記に於て孔子の敎ゆる所ろを悟る、春秋に於て孔子の望む所ろ安んずる所ろを察す。此を以て四書六經は明白に孔子の敎なり、別言するに孔子の心に適はざるの敎へは四書六經中に在るなし、儒敎の生死善惡一に四書六經の言語如何んに關す。

此故に吾々は公平に四書六經を通覽し、其の女性に關するの

條目若干を拔き、以て儒敎が女學に對するの關係果して何如んなるかを窮む、淺學者の研窮固より完全に遠しとは云へども、然れども吾人は之れ決して正理に當らずとは信ぜず、故に一に女性の本質に就て、二に女性の敎育に就て、三に愛情及び交際に就て、四に結婚及離婚に就て、五に一夫一婦に就て、六に室家に就て、七に夫婦に就て、八に母子に就て、九に女性の地位に就て、十に儒敎の影響に就て「儒敎」「女學」の關係する所何如んを評し、極めて平易に、然れども極めて簡易に今日女性が此の一宗敎を何如にすべきかを斷論すべし。

（一）　女性の本質。

儒敎は女性を見て何如なる者とする乎。

男女を乾坤に配するなり。易に云く大ひなる哉乾元萬物資て始む、至れる哉坤元萬物資て生ず、（上象傳）〇乾道は男と成り、坤道は女と成る、（繫辭上傳）〇乾は天なり故に父に稱す、坤は地なり故に母に稱す、（說卦傳）〇之より推して乾は陽なり剛なり天なり上なりとし、坤は陰なり柔なり地なり下なりとし、即はち女は地にして下り、男は天にして上るものと推論する也。

儒敎は女性を見て男性と同等とする乎。

（二）
陰陽に配するは善し、故に剛柔に配するもよし、更に推して天とし上とし地とし下とするもよし、然れども之に由て其等を上下に序するを得る乎、儒敎は即はち左樣に序したるなり。詩に云く、乃ち男子を生む之を牀に寢ね之に裳を衣す室家の君王たらん、乃ち女子を生む之を地に寢ね之に裼を衣す唯酒食是議り父母に罹を詒すなけん、（我行其野）〇禮記に云く男、女に先だつ剛柔の義なり天、地に先だち君、臣に先だつ其義一也（郊特牲）〇論語に云く、唯女子と小人とは養ない難しとす之を近づけバ則ち不孫之を遠ざくれバ則ち怨む（陽貨）〇之より推して女性は男性に劣れるものなり男性女性は決して同等にあらざるものと斷定する也。

儒敎は女性を見て何如ほどの力ありとする乎。

すでに女性ハ男性に劣れりと斷定し、而して女性を見て何如ほどの力あるものと認たむる乎、彼は甚ハだしく女性を輕しむる也。禮記に云く、婦人は人に伏する也、是故に專ら制するの義なく、三從の道あり、家に在ては父に從がひ、人に適ては夫に從がひ、夫死せば子に從がひ、敢て自から遂る所ろなし、設令ば閨門を出でず、事は饋食の間に在るのみ、事擅ひまゝに爲ることなく、行ひ獨り成すことなし（大

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

戴禮)○之より推して女性は獨立獨行の力あるなく、天下に專ら任すべきの家なしと迄ては斷定する也。

儒敎は女性に命じて何如はなさんとする乎。只だ家に閉居して外に出でず且つ外事を言ふ可らず女子の外事を言ふは國家の亂階なりとせり。易に云く、遂る所ろなくして中饋に在り(家人六二)○禮記に云く、女は外を言はず、門を出る必らず其面を擁蔽す(内則)晝は庭に遊ばず、夜る行くに火を以てす(大戴禮)公庭に婦女と言はず(曲禮)○書經に云く、牝鷄晨たするヿなし、牝鷄の晨たするは惟れ家を索はいす(牧誓)○今ま商王受たゞ婦言を是れ用ゆ‥‥爾の躬に于て戮あらん(同上)○春秋十有八年に公夫人姜氏と共に齊に如く之よりして亂あり故に孔子之を筆責す。孔父が妻路に於て宋の華父督に懸想せらる督後ちに其君を弑し且つ孔父を殺ろす、孔子其の過ちは素と孔父が妻を外に出したるにあるを以て之を筆誅す○之より推して婦言を用ひざるを大ひなる德とし女子が外事を云ふを以て非常不吉の事と斷定する也。

之を要するに、儒敎は男女を天地の如くに相違するものとしたり、故に男女の同等ならざるは固より論なく、女性は實に養ない難きものなり、實に愚ろかなるもの也としたり。吾人其の義を述ぶるの代りに、玆に女大學及び女誡の文を引用すべし、此の兩書が女性の本質を說く所ろ、眞に能く儒敎が女性を見るの見解に合へり、

支那人曹大家の女誡に云く、女を生めば三日之を床下に臥さしむ其の卑弱人に下るを主とするヿを明らかにする也。男は强を以て貴とし女は弱を以て美とす。曲從より尊ときはなし姑爾りと云ふて而して非なるも猶ほ宜しく命に順がふべし是非を違戾し曲直を爭分するを得るヿ勿れ是れ曲從なり。

日本人貝原益軒の女大學に云れく、女は陰なり陰は夜にて暗し所以に女は男に比ぶるに愚かにて目前なる然るべきヿをも知らず又た人の誹るべきヿをも辨まへず我夫我子の災ひと成るべきヿをも知らず科もなき人を怨み怒り呪咀ひ或は人を妬み惡みて我身獨り立んと思へど人に憎まれ疎まれて皆な我身のあだと成るヿを知らず最と果敢なく淺猿まし子を育つれども愛に溺れて習はせ惡し、斯く愚かなる故に何事も我身を謙だりて夫に從ふべし。

此等の說の善惡は暫らく言はず、儒敎が女性を見て如此き本

質のものありとするに至ては吾人確信して之を慷歎する所ろのもの也。

（二）其敎育。

然らば儒敎が女性を敎育せんとするの理想亦た知るべき也。孔子曰く女子と小人とは養ひ難しと。古へより小學大學の設けあり、人生れて八才小學に入り、十五大學に入るを聖人の敎へなりと聞く、而して男女は七才より席を異にするが故に、彼の小學に入るものは即はち男子のみなりし也、朱子曰く小學は灑掃應對進退の節又た禮樂射御書數の文を敎ゆ、大學は理を窮め心を正うし己を修め人を治るの道を敎ゆと、而して女子は小學大學に入らざるを法とせば、彼の憐れむべき女子は少なくとも彼の灑掃應對進退の節と及び心を正うし己を修るの道とを何處に於て學ぶべき乎。孔子は之を不問に附したり。或人朱子に問ふて曰く、女子も亦た當に敎へ有るべし孝經よりの外か論語の如き只だ其面前明白ある者を取て之を敎へば何如ん、朱子曰く亦可あり曹大家女戒温公家範の如きも亦た好し。禮記內則に曰く、女子は十年にして出でず、姆婉娩聽從を敎へ、麻枲を執り、絲繭を治め、紝を織り紃を組み、女事を學びて以て衣服に供へ、祭祀を觀て酒漿籩豆葅醢を納め、禮相けて奠を助くと。然らば則ち儒敎は女子の敎育法を全く男子の敎育法と別にしたり、女子の爲に學校を設くるを可とせざりし、女子は寧ろ家に留つて學ぶべし、只だ中饋の事を學べば可あり、之にて足れりとはしたる也、儒敎は必らずしも之より以上を學とを女性に禁じたりと見へず、然れども迚も學びがたしと斷念したる如し、故に若し女子に高等敎育を施こし得たらば則はち是れ孔子彼自らの夢にも望み信ぜざりしとにて、別言するに孔子は女子を養ひ難きものとしたり、高等敎育の結果を受け能はざるものと信じたりし也、故に其の女性を見るの眼力も亦た之に相應し、女性に命ずるの敎へも亦た之に相應し、引いて儒敎全躰が女性を見、女性を待し、女性に需むるの眼力も亦た之に相應したる也。

色は匂へど散ぬるを　（諸行無常）
我世誰ぞつねならん　（是生滅法）
有爲の奥山今日超て　（生滅々已）
淺き夢見し酔もせず　（寂滅爲樂）

論説

○第三回女學演説

印度女子教育の景况（第百四十三號續）

プンヂツタ、ラマバイ述　佃與二郎記

此の如き有様ですから、私は大に失望して、六年前に自國を去りて外國に行きました、先づ英吉利に往きて、三年の間婦人教育の有様を實視し、夫より又亞米利加に往きて、婦人達が如何ある事を爲し、如何なる運動を試み居らるゝかを視に參りました、然して私は印度に居る頃よりして亞米利加の婦人に於て實に驚くべき事を聞いて居りました、則ち或る方は政治家、或る方は醫師、或る方は傳道師となつて、社會の爲めに働かるゝと聞きました時に、私の心には左の如き考が起りました、即ち若しも米國に右様のエライ婦人方が居らるゝならば、何卒して私の素志を賛けて頂きたいものであると思ひました。

然るに當時私の思ふたる事は間違ではありませんでした、私が合衆國に參るや、私の想像したる如きエライ婦人に面會しました、故に私の兼ての考は誤れりとは思ひません、且つ其地に在る間、私は實に有益なる色々の友達と交ることを得ました。當時私は如何にかして私の國の有様を改革致したき者と思ひ之を人々に諮りました所が、何れも歡んで之を助けて下さると申されました、尚ほ私は三百ばかりの集りに於て前同様の事を申しました處が、私の志を賛助する爲めに一つの社を設けて下さいました、此社の本部は坊斯頓に在りて、今では六十五に分れて居ります、而して其社に於ては、私の建る學校を十年間補助して下さることを約束して下さいました。

私の國に歸りて學校を建ると云ふの重なる目的は寡婦を助け教育すると云ふに在るのです。且つ私は文學の教育ばかりでなく、總て家業の上に就ての教育を授くる積りです、左すれば其中からも先生とならんと望み習ふ者も出でませう、醫者とならんと望み出る者も御座りませう、斯うして女子を教育し夫に倚りかゝらずして獨立の出きる様に致したいと思ふ私の此の望みは、實に幾星霜の間か太だ熱心に有し居りたる者です。

然うして之を獨立さするには先づ基督の信者と爲すと云ふ事が專一であらうと思ふ、所が私の國では若しも信者にてもあつたあれば、親族朋友渾て之を棄てしまつて一向に之を助けては呉れません、既に助けて呉れぬと云ふ事になれば女子は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一人で立つて行く事は出きぬから傳道者の惠みを受ると云ふ事になります。

併しながら多くの人は左の如き考を有して居ります、他國の人に助けを受るのは自國の耻である、信者となるのは即ち他の援けを求るのであるから國の耻、又親戚の耻と云ふ樣に心得て居ります。かゝる風習人情であるから一朝にして之を洗ひ盡す事は隨分困難なる事で御座い升。ケレ共私共は飽迄もかゝる女を敎育して、獨立せしめ、高尚にしたい、本心を淸らかにしたいと、切望する者であります。且つ此の考を持ち居る者は單り私のみならず英吉利の人も合衆國の人も皆同一であります。

而して私は右の寡婦を助くる爲めに丁度七萬二千圓の金が十年の間必要で御座います、併し此等の金は容易き事では出きません、依て私は大層に働き、又私の友達が大層に計畫して下さいました。故に私は知己の諸君の助けによりて、今六萬五千圓の金を得る事が出きました、併し是れだけの金額では未だ足りませんが、私は金の降るのを待ては居りませんで、神の力を賴み段々と働く積りです。

私の視る所を以てすれば日本の男女は大層敎育に就て御熱心である樣に思ひ升。私は願ふ、丁度日本の婦人敎育に就てアナタ方が御熱心に御盡心あらるゝ樣に、私の國に就ても御盡力あらん事を望み升、又私の國の寡婦の多き女子敎育の欠くべからざるとに付て、偏にアナタ方の贊助を冀ひます。

本年の三月に於て私は華盛頓府の婦人の御集りに招かれました故に、其時クレーブランド夫人又他の夫人にも面接するの榮を蒙りました。其時私が演べましたる事に就て、熱心に御贊成下されまして何れも大層に盡力して下さる事を約しました。私は又或時日本の上流のお方にも御目にかゝる事が出きましたから彼のクレーブランド夫人以下に話したる通りに演べて私を助けられん事を望みました。

滿場のアナタ方も亦私共の女子敎育に熱心なる事を贊助して御盡力あらんとを望みます。隨分時はかゝつたが諸君に今一言敎育の事に就て申したきとが御座ります。

爰に御出の方々は女子敎育の必要なる事は定めて御解りになりましたらう、然して亞米利加に於ても英吉利に於ても、女子に敎育を授けませんでしたならば社會を利し公益を進むる樣な事は出きぬに相違ないのです。外國に於て數多くの婦人が敎育を受けて、社會の進步、又一己々々の家族の進步、又た

國家の爲め公益の爲めに色々盡力して居る事を考へましたなれば、私共實に驚くべき事であるのです。

併し何れの國に於ても女子の自由を束縛し、男子と同樣の教育を授けませんなれば、決して盛になる事はありますまいと存じ升。然るに私共の國に於ては左程高尚の教育を女子が受けぬと云ふ事を存じて居ります。私は今度益々女子教育の必要なるを悟りましたから印度の男女に同樣の教育を授くるの志願です。若し此の私の志望を完ふしましたならば、私の國に於て受る所の利益は實に計るべからざる者と思ひます。然して其教育せられたる婦人は、活潑なる事業を爲して、政治あり、法律の事あるに、働きを致しましたならば、國内に爭鬪もなく戰亂もなく又惡しき道に陷る樣の人も無なりませう。爰に御集りになりたる人々は何卒私の素志を憫まれて御盡力下されんことを祈ります（完）。

〇飲食物の説附酒と煙草の害（其四）　津田仙　述

煙草を吸つて段々と精神が鈍くなると云ふとを申す者があります、然るに亞米利加抔でも左樣な説があります、左ればとて決して烟草を吸つて直に馬鹿になるではない、又烟草を吸つて居つても利巧な人がある。玆に寫眞も御座いますが、先きに我が邦へ來ましたゼチラル、グランド氏でありますが、此の御方は烟草が大好きで彼方の烟草で一本三圓位の高價の品を、一日に十本位宛吸ひました、然るに斯人は勇氣がないかとならば、彼の南北戰爭の時に當つて其北部の軍を討倒しました英雄であります、然るに此人は四五年前に死にましたが如何なる病かと云ふに、烟草の毒に當つて舌の處に癌と云ふ惡い腫物が出來ました、其時醫者は其原因を烟草の毒だと申しました故、當人に取つては烟草に離れるは至極の困難でありましたが、命には代へられぬから離縁しましたけれども、其離縁後も尙ほ悶念が殘つて居りまして、遂に命を落しました、斯人は財產もあり人望もありましたが、後に礦山の株劵を買つて澤山の借金が出來ました、併しながら其幾分かを償却する積りで著述をしましたが、其著述は同人が死んでから後に數十万圓の金を返したと云ふとであります、此病は借金を起したと同時でありますから其心配もありませうけれども實際烟草の爲に名譽と身躰を失つたと申して宜しう御座います。又今一人御座います、是は此間每日新聞に掲げた獨乙の皇帝で、斯人は智仁勇を兼ねて居つた人でありまして、獨佛の戰爭の時に獨乙南方の困難なる地方から兵を集めて有名な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るナポレオン三世を虜にした人であります、併しながら措しい哉其父君が隱なられると間もなく三ヶ月を出ずして斯世を去られました、其病の原因は何かと云ふに同皇帝も誠に烟草が大好きな方で恰度ゼチラル、グランドと同じ性質の癌が咽喉に出來て死なれました、何と實に天が此の文武兼備の人を以て多くの警の見本を示されたので善い戒めであります。ソーして此の烟草は勞れた時に一服飲んで欝愁を晴すと云ひますが、是は晴すのではありません、阿片も其通りで神經を鈍くするから忘れるのであります、又腹の空た時に一服吸ふと凌げると云ふが、是は決して食物になるのではありません、胃の方で食物を欲しいと訴へるのを一時胃の働きを魔醉させて忘れさするのであります、我は子供の時に餘程徒で御座いまして蛇を攫いて煙管の脂を嘗めさせましたら、一尺計り先の方に行つて頭部の方から色が變つて死にました、面白いから幾個もやりました、蛙ハドーかと思つて攫まいて嘗めさせましたら、蛙ハ如才ない水の中へ這入つて臓腑の様なものを出してスッカリ洗濯して仕舞ました、又アルガイと云ふ人の病院で兎にニコチンを吞ませました所が十五時間にして、起つ力がなくなつて手足に痙攣を發して口には濃厚なる所のニコチンの息氣ある液を出して死にました、又虫抔を驅除するに烟草の根を煎じて濯ると死ぬと云ふことであります、頭痛のする時烟草の脂を頭に貼ると癒ります、又肺の痛い所抔へも貼つて癒ると云ひますが是は痲痺させて癒るのでありますが時に依つて夫れなり倒れる事があります、腹の上へ貼つてさい死ぬことがあるのに口へ入れて喫むのは實に恐るべき事であります。西洋諸國では色々と規則が設けてありまして、子供に烟草を賣る事が出來ぬとか、子供が往來で烟草を喫んで居りますと其親から罰金を取るとか、佛蘭西でハ教師が烟草を喫むとハならんとか、或は生徒が烟草を喫むと罰するとか、又瑞典では少年が烟草を喫んで居ると矢張其父兄から罰金を取ります、又獨乙でも十六歳以下の子供が喫んで居れば、巡査が拘留して罰金を取ると云ふ事であります、日本でも支那でも之を禁じ様と思つたことは度々ありますが、併しながら政府で之を禁じ様と思つても全く之を禁ずることが出來ぬので、人が常に喫みたい〱と思つて居りますから、隱れてゞも喫みますので迚も政府の力で禁ずることは出來ません、一度び犯せば策を當て二度びめには鼻を殺ぐ抔と云ふ嚴律を曾て土耳其や露西亞で行ひましたが、到底行なはれません。併しな

（八）

がら亞米利加の婦人矯風會の勢力は實に驚く可き者で、婦人矯風會員は三百万人も御座います、其外禁酒會と云ふものもあり、元來禁酒會とは「テンペレンス、ソーサイチイ」と云つて人間の害になるとは總て除くと云ふ目的で、酒を禁ずる計りでなく總て身躰を害する事は禁ずると云ふのが此の會の本分であります、此會は實に勢力を得て居りまして、亞米利加では自國計りではなく他の國々へ會員を派遣して益々盛になります、何卒我日本でも益々此會を盛にして社會の害毒を除きたい者であります。(未完)

批評

○もしや草紙に就て(其二)　不知菴主人

既に小説とするの價値なし、然らば其の文章は果して傑出なるや。嘗て聞く昔鵺といふものあり、虎身にして猿首蛇尾なりしと。今鵺を以て新動物なり珍獸なりと愛重すべくんば、もしや草紙は則ち新文躰なりと讃稱すべけれど。何如せん、鵺は怪物なりとは一般の定論なるを、倩々もしや草紙の文躰を案ずるに。ある處は自笑に似たり、ある處は風來の如し、ある處は三馬の風あり、ある處は一九の躰あり。ケレド其皮相を換せしのみ。自笑の麗玄風來の跌宕三馬の精細一九の詼謔は求めんとするも得べからず。人は曰く奔逸なりト。然り實に奔逸せり。サレド其奔逸せるは、懸河の滔々たるにあらずして桃のドンブラコとして來るが如く。駭くべきの妙觀喜ぶべきの奇景抑も何處にあるや。溪河に洗濯をする婆樣、饑渇に責めらるゝ杣人唯是を願ふのみ。假りにも山澤の美を探る人誰かは戀々すべき。塵に支へられ岸に漂ふ。嗚呼、是を奔逸なりト曰つて可なるか。

斯く評し來れば「もしや草紙の價値は文章脚色にあらず」と辨護せらるゝ人あらんが。然らば其本色たる滑稽諷誡は果して盡せるものなるか。マークトウェイン氏が嘗て擇出したる一文の如きは實に抱腹に堪へざるものなり。

" We expect then, who the little book (For the care what we wrote him, and for her typographical correction) that may be worth the acceptation of the Studious persons, and especialy of the Youth, at which we dedicate him particularly."

余も實に抱腹せり。然れども其抱腹せしは面白きが故にあらず、可笑きが爲にあらず。たゞ餘に馬鹿々々しければなり。もしや草紙の滑稽は殆んど是に類す。清水夢野が詼謔を解くは前にも述し前後矛盾の所爲のみ、豈眞の滑稽ならんや。

滑稽の書は元より癡騃の言行を許すと雖ども、性情の一致を犯して可なりといふを聞かず。風來の志道軒傳お千代傳（小説とは云ひ難けれど）等を以て一九の諸著に比較すれば容易に作者の用心を知るべし。又サーバンテスのドンキホテ、チッケンスがピックウヰックペーパース等を讀まば、性情を寫せる矛盾せざるを悟るべし。古今に名ある滑稽小説を繙くにも及ばず、近く氏神の祭日に二十五座を見れば、忽ちに悟了する事難からず。ヒヨットコの面を被つて癡騃の身振を爲すは可なり。若し日本武尊或は八郎爲朝に扮し狼狽轉身せば誰か其不可なるを笑はざらんや。笑ふ事は一なりと雖も其起因を尋ぬれば數種に止まらず。豈獨り稽滑に依て誘はれんや。マークトウヱイン氏前に掲げたる文を評して曰く「如此誤謬にて充たる文は沙翁の美妙を望むと同じく常人の爲る能はざるものなり」と、僥倖にも沙翁の美妙と並稱されしは、果して立派なる滑稽的あるか。余ももしや草紙を讀みし時抱腹せり。然れども其抱腹せしはヂッケンス一九の諸篇を讀みし時と同樣の起因にあらず。若しマークトウヱイン氏に倣へば「如此可笑き文は一九の艶麗豪壯を望むと同じく尋常作者の爲る能はざるものなり」と曰はん。具眼の讀者容易に是を判すべし、余は更に進んで解釋するを欲せず。

次に其諷誡は如何と云ふに、是も敬服と讃辭を呈するを得ず。スウヰフトはテール、オブ、エ、タッブを著はし宗教を嘲り、ガリバー巡島記を著はし政治を罵りたり。古今此二書を繙く者皆著者が諷誡の奇才に驚く。されども「かの宰相は愚なり」と曰はず、「此政は腐敗せり」と曰はず、一讀看過すれば兎園の冊子に過ぎず。然るに其裏面より觀察すれば言々句々嘲弄の意を含まざるはなく。僧正シャープ戰慄し、大臣ワルポール恐愕するのみか、時の哲學者政治家皆是を喝采し、分けて後世に到りボルテイア、スコット等の諸大家万口一聲に賛稱するは何故ぞや。桃太郎猿蟹合戰と甲乙なき子供咄是をもしや草紙の「甲伯爵は云々乙長者は斯々」と云ふに比せば何れか優れる。「彼は物を盜めり」と曰ふは易し、是を他事に寓せんとするは極て難し。明治の文學社會に顯はれたる諷誡小説頗る多し。其尤なるを京わらんべ及痴人之夢とす。もしや草紙は此二書に凌駕すべきか、世上の讀者何と思召す。

滑稽も諷誡も上乘ならずとせば、もしや草紙は全く捨物なるか。廢物利用の世の中、履古した馬の草鞋使切した雜巾の襤褸も焉んぞ無用視す可んや。况して立派なる器ー縱令實用に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

適せざるも、賁土藏の邪魔物となすに忍びんや。もしや草紙は缺點多きにもせよ、若し嘲弄的の點より見れば頗る取る所あるに似たり。二十九回三十九回の如きは壓卷と云ふべし。シカシ風來三馬に比せば漸くヤシヤゴ位にすぎず。最一ッ惡口を曰へば、嘲弄と云はんより罵詈と云ふ方穩當なるべし。唯遠慮會釋もなく書散せしは余の服する處なり。

製本も奇麗、插畫も澤山なれど何れも意匠に貧し。一ト口に以上を概括すれば「もしや草紙は無風流なる法律學者と粋がりの村學究が天狗俳諧なり」と云つて可なるべし。其小瑕瑾は更に云はず、蓋し咄嗟の作たるを知ればなり。朧にて筆に任する戯文なれば固より是と云ふ惡氣もない評判記ナンダカ障つた心地がしても其が所謂偶中り必らず御氣に懸られな寢言じやぞや〳〵（アヽ我ながら口の惡い男だ。御免候へ〳〵）。

○大日本婦人敎育會雜誌

去月廿一日發兌として、此頃ろ大日本婦人敎育會雜誌第一號出版せられたり。抑も此會は一昨明治廿年一月十五日小石川幼稚園に於て開かれ最初婦人敎育談話會と名づけたるが同年十二月末より會務擴張の計畫あり遂に昨二十一年一月廿一日を以て大日本婦人敎育會と改稱して其第一回を開かれたるものなり、以來毎月一度づゝ講談會を催うし諸大家の演説ありしが其筆記の集められたるものぞ即はち此の雜誌とはなれるなり。雜誌は條例に隨ひ竹内孝本田川壯吉の二氏署名したれど會に於ては棚橋絢子水野峰子小鹿島筆子の三氏雜誌委員となりて専ぱら編輯に從事せらる。現今會員は名譽會員十名、通常會員婦人一百六十九名、客員男子十八名あり。雜誌は非賣品にして只だ會員に頒つ、第一號には杉亨二氏の婦人三德の説、添田壽一氏の婦人女子の地位改良論、島地默雷氏の男女の關係、棚橋絢子の虎と蚤の話と云へる四説なり、發行所は牛込仲町十七番地大日本婦人敎育會にあり。

叢話

○詩歌文章　―のぶ

森羅萬象の惣ては七十元素より成ると云へり、其數億の億を以てだに數へ難きが僅かに七十に足らぬ元素の配合によりて出で來るとは極めて驚ろくべきことなり、然るに人世にも亦た此の如き不思議はあるなり。即はち日本人の言語はいろは四十八文字にて寫し出さるゝと云へば、大凡そ此の國人の心

に浮みて扨て其の言の葉に出んほどの千種萬端の思ひは、皆是れ四十八文字にて寫し出さるゝもの也、而して四十八文字と云へば三十一文字の短歌一首、十九文字の發句一首を詠ずれば最早大方は用ひ盡すべきほどの僅かの文字なるを、古し素盞鳥の尊八雲立の御詠を作られたる以來、代々の歌よみ、世々の名人ども鬼を泣かせ神を舞わしむるの名吟幾萬首は悉とく此の四十八文字にて書留められたり、言を換へて申さば彼の四十八字即ち僅かに七十元素の過半數の文字は即はち幾千と限られぬ人間の高尚なる志想を組織したるなり。

電信機の音信を通ずる、傳話機の談話を傳ゆる、近年發明したる保音機の言語を貯蓄する、又は近日に新發明したる此の保音したる言語を郵便にて遠きに送る如き、何れも皆な天工を輕しとするに足る尤も驚ろくべきの力あるものあり、然れども余を以て見れば文學社會に更に之よりも驚ろくべきものあるなり、見よ墨筆を以て白紙面に印記したる死したる有形の文字は、一字一字皆な無形の大思想を通ずるの力あるにあらずや、讀むものありて若し之に眼を觸るれば、彼の死文字は躍然として奔馳活動、或れ泣かしむるの慘歎、或は激せしむるの慷慨、或は高尚天に達せしむるの美觀美念をば通ずるなり、ミルトンが壯大なる吟想もチイヅチルスが高尚ある詩情もダンテーが精巧なる想像もテンニソンが華麗なる愛情も、カーライルが獅子の如き怒もバイロンが虎の如き哮りも皆是れ其の詩文一字一句の中に固く存在す、之を吟誦する毎に文字躍然として起立す而して飛散せざる也、他日再たび之を吟誦すれば更らに躍立して更に新たなる勢ひを以て起る、鳴呼文字汝ちは是れ何如ある使ひぞ。

如此く不可思議なる如此く忠實忍強なる文字よ、若し汝ち余を棄つ可らすとせば乞ふ余が爲めに使いせよ、而して更らに請ふらくは余が姉妹の爲めに多く使はるゝとを許せよ、女性は是れ深閨に居て空しく窓下に怨望するとの多きものなり汝ち希わくは之に使ひし又之が爲めに使いせよ。文字は云く吾れ甘んじて然せんと、姉妹諸君請ふ之を用ゆるとを初めよ、人間皆な文情ありたゞ開かざるのみ、其の蕾を破つたる之を文章家と云ふ、其花を更に搾つたる之を詩人と云ふ、文は猶花の如し、詩は猶ほ香水の如し、文は猶ほ酒の如し、詩は猶ほ燒酎の如し、然ども皆な香味あるもの也、諸君乞ふ之を用ひよ。

○ 裸蝴蝶　　もみぢ

國民之友附錄美妙齋主人新作の小説に挿みたる、蝴蝶衣を攝

ゝげて水中に立の圖は大いに批評を蒙むり、府下及び地方の諸新聞紙に於て嚴しく論難したり。之を難ずる者の多くは美人裸躰の圖を不道德とするにあり、之を辨ずる者の多くは冷嘲浮薄にして似而非風流を氣取にあり、而して美妙齋が之に答へたるの主點は、裸躰は曲線の配合の工合を示す美術の上乘なる者なりと云ふにあり。余は何れにも滿足するとを得ず。

第一、裸躰の圖を擧て不道德なりとするは未だ美術を知らざるものゝ言ふことなれ、アンゼロ、ラファイロ、ドーラーの如き名手の畫を見るに、啻に裸躰なるのみならず更らに甚しきものあり。然るに此等の畫が高尚なる美術の愛し手に愛されて未だ嘗て不道德なりとして嫌われざりしものは、一つには希臘羅馬の如く肉躰完美を大切にしたる時代の習慣にもよりしとは云へ、其の尤も大ひなる元因は、觀るものゝ裸躰と云へる觀念を起さしむるに顧まわらず先づ美なりと感ぜしむるに足りし程の出來ありしがゆへ也。

第二、然れども曲線の配合を見せんとて特更らに裸躰を畫がき、特に裸躰の美人を畫がかんとするものは、今の時世の希臘羅馬の時世にあらざるとを思ひ、先づ左の三事を覺悟すべし、曰くアンゼロ等が存したりし時代の如き肉躰完美を慕ふの志想は今の日本人に皆無なる事、曰く故にアンゼロ等に立優る丈けの畫力あるものにあらずば今の日本人に裸躰を感ぜしめずして直ちに美を感ぜしむる能はざる事、曰く故に今に於て裸躰の圖を作るは極めて大胆なる大事業なる事。美妙齋の圖按及び省亭の揮毫には先づ此等の覺悟ありしや、余は兩君の勇を感ずると共に亦た兩君の爲に惜しみたり、君等曲線の好配合を示さんとに熱心し、且つ之を示す丈の伎倆ありとせば、乞ふ先づ童兒の裸躰を畫け、次に童女の裸躰を畫け、次に大丈夫の裸躰を畫け、美人の裸躰を畫くが如きは即ち美術上に最とも六ケしきと也。

第三、然し此の畫に若し十分の畫力ありたらんには、右に申す如き用心說は總て無用なり、然るに余を以て見るに此の畫は甚はだ不出來なりし、一覽するに少しも新たなる美の觀念を起さしめ能はざりし、而して蝴蝶と武者との位置に於て大ひなる失策あり、胡蝶の立ち方に於て大ひなる失策あり、胡蝶の身躰に於て毫末も好配合を感ぜしむるの美なし。嗚呼荒濱の頭り四面沈々、天麗らかにして水に細波なし、蝴蝶躍り上つて抱へたる濕衣倘ほ水滴々たるとき遙かに壇の浦を望て悵然たるか、若くは亂髮后に垂れ衣も膝邊に掛るとき身を岸頭よ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

曲げ端なく水に映じて紅潮を催ふすか、而して那岸の一端に破船あり武者密かに半身を現はすが如きは極めて面白かりしものを、山田君平生の得意何故に此に迂なりしか余は尤も之を惜むもの也。

一言するに、此の畫は美を感ぜしめず而して裸躰を感ぜしめたり、故に畫力に乏し、故に不道德の畫となりたり。

○大丈夫の質朴　みどり

昔し胡文定公の曰く、孟子云ふ堂高きと數仭、食前に方丈、侍妾數百人、私れ志を得るとも爲さじ、學者須らく先づ此等を除き去り常に自から激昂すべし、便はち墜墮を得るに到らじと、常に愛す諸葛孔明、漢末に當りて躬から南陽に耕やし、聞達を求めざりき、後來劉先生の聘に應じて山河を宰割し、天下を三分し、身は將相に却り手に重兵を握る、亦何を求めて得ざらん何を欲して遂げざらん、乃ち後主と言ふ、成都桑八百株薄田十五頃あらば子孫の衣食自づから余饒あらんと。嗚呼此輩眞に大丈夫と云ふべし、大丈夫の眞面目は淡泊にして質朴なるにあるなり、特に斯の如き貧乏なる日本國に居り、今ま國家極めて多事なるの時に會す、何如なれば吾等紫を着細き布を着るとを得んや。

○英米の女權　かすみ

植村正久の君倫敦より歸られたるに付、彼地の事さま〲と承たまわつたるうちに特に驚喜したるは女の社會の進步預想外に出でしとなり。彼の女子に撰擧權を與ふべしとの議論は米國に於て其のます〲隆んとなるは言ふ迄もなく、英國に於ても最早たしかに其論の成功すべき期望を得たり、本年サウリスベリーが公けに女子撰擧權與ふべしとの事を演述したるより保守黨に於ては兼て此の事に賛成したる其論勢を一層に強くしたり。思ふに女子が撰擧權を得るの日必らず近きに在らん、政治上に於ては普通の投票權を得、宗教上に於ては自由に牧師教師となり、果して女子が公衆の道德政事に關係し得るの日と相成らずんば、社會の道德を一新すると甚はだ覺束なし。左れば今後の女子教育は凡そ撰擧權を女子に與ふるとの一事を目途として之に相應するよう教育するを必要となさん。但し斯申せばとて女子は男子と同樣同一に公けに運動すべしと云ふにはあらず、どこ迄も女子は男子の助手(ヘルプメート)なるべし但其助けを家屋內に於てのみ助けずして倂せて公事に於ても助けよとは云ふ也。彼フホーセット夫人の如きは定めし殺風景の女性ならんとは兼て余が誤つて想像した

る所なるが直ちに其演説を聞て其風采を見に、極めて温雅優和なる淑夫人にてありき」。なんど語られたり、女學子先生の御持論愈〳〵験あり、妾は深く御持論に贊成する餘り、今此談を聞て喜こびに堪ず、其あらましを記して座右に呈す。

○婿擇み　謠本解釋

是空子

是は西洋貴來と申す翁にて候娘も特の外大きう成て候らへば能き夫のあれかしと祈り候ほどに知れるものあつて申すやうは家内禁錮と申す若者今どきに似合ぬ頼母しき奴と承たまわり之に與へばやと存じ候高砂や此の浦船に帆をあげて〳〵月もろともに出汐のウ、謠ふ祝ひは近からめ賓に持べきは子なる哉〳〵早や召び出して喜こばせうぞ。

評。知れる者に依て婿を定む、禮あり。西洋貴來の名銓自づから今時に似合ぬ若者に對す、妙。乍まち高砂を謠ふ、古風掬すべし。妻に談らわず娘に問はず一了見にて斷定す、古しへの禮なり。

イカニ誰かあるお多福を御召び候らへ。

評。先づ太郎冠者を召ぶ不性の所、妙。一聲娘が名を洩す、聽者をして佳人を想像せしむ、老手悩殺の法。

御前に候。

お多福に早々參るやう傳へ候へ。

恐こまつて候。

あるじの御召に候早々參るやうと仰せ候。

アラ喧ましの事かな女性の部屋に斷りもなう入るとは以ての外なり斯る事は西洋には無きとに候。

評。先づ頭から叱り次に據る所を示す論理嚴密。

閉口いたして候、恐れ入て候、御言葉を返すは恐ろしけれども惣じて女性の御部屋に近づきては足拍子を高くし三たび周つてグルリと運轉しトン〳〵と音して響きを傳ゆるとこそ承はり候、某さやうに致すと覺え候。

評。先づ閉口の新文字を以て答ふ、甚だ力あり。閨門に入るの禮懶記大躰二章にあり僕倘ほ禮を知るに由て家主の嚴格を示す用意極めて綿密。

されば喧ましとは申せしよ西洋には戸の板に近づきコッコッと手にて叩くなれ斯程の事を知らぬこそ笑止なれ。

然らば足にて叩くを手にて叩くなれ固より柴門を叩くなど承わりてハ候へども斯樣の事は禮に無きものに候世は末世と相成りさて〳〵悲しき事を見るものかな東方朔が三千年長き命ちは怨みなれ早や早々に死にたく候。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

評。慷慨悲憤歔欷流涕長大息。
勝手にすることこそ宜れ
評。此に至つて勇を示す、二十にして動かざるもの也。
之は如何な事太郎冠者は何して御坐るぞ一層高くして召ばうずるにて候
太郎冠者〳〵。
御前に候。
之は何如な事、お多福は何と申せしぞ早々參るとか。
あるじの御召に候早々參るやう仰せ候と申せば、アラ喧ましの事かな女性の部屋に斷りもなう入るとは以ての外なり斯るとは西洋には無きとに候と、特の外御腹立に候。
評。悉く叙べ去る、正直を見すなり。
父の使に聞かず先づ之を責るは孔子樣の禁制たり再應參り訖度早々に來れと傳へ候へ。
恐こまつて候。
あゝ今日は何如なれば斯く事繁きぞ、春の朝たの甲斐もなう四間の廊下を行來するはアヽ心慟いぞや〳〵、
アヽレ早々參りあるじの仰せを傳へんと存じ候。
人の口の言は深水の如し、湧てながるゝ川、智慧の泉なり。

○万國赤十字社大會の感（八）　石黑忠悳述

獨逸婦人の氣風、並に上下共に赤十字事業に熱心なる事扨て獨逸の婦人と云ふ者は、（英吉利や佛蘭西の事は能く知りません獨逸の事丈けですが）一躰歐羅巴の諺に、英國の婦人は娘を連れて書籍館に行き、佛蘭西の婦人は娘を連れてヲペラに行き、獨逸の婦人は娘を連れて廚（或は市）に行くと云ふ諺が有ります、成る程其の地を經歷して見ますれば、誠に味ひの有る言葉で、英吉利婦人は學問に達して、婦人ながらも政事にも一ト口入れて見たいと云ふ氣性が有る、佛蘭西婦人は立派の事が好きて、ヲペラの評論抔を務め、獨逸の婦人は實務の事が多い、併し若しこれを反對の方から云ふたならば、英吉利婦人は理屈に流れ、佛蘭西婦人は遊びに耽り、獨逸婦人は吝嗇に陷ると云ふ樣な事になります、畢竟するに、獨逸婦人は、他國婦人に較ぶれば、着實節儉、其の上に勇猛ある氣質を帶びて居る樣に思はれる、其の勇猛とは、即ち赤十字事業の如き、他國に比して餘程強みがゝつて熱心して居る、ソモ此の風俗は何に基くので有るかと云へば、或は獨逸老皇后の御風采に則つた樣である、夫故か他國と違ひ、獨乙にては宮中の夜會等にも、金剛石の飾は少なく、薔薇の花づくし

なるが、赤十字事業の如きにあれば、思ひの外の憤發にて此老大后宮陛下を始め、此の國に御出の時御土產に金を持て來て、孛漏西國の貧民に救助したと云ふが、陛下の御手始めです。陛下は頗る御人望の有る方で、國內の婦人の風をも改めらる可き程で、獨逸に於ては衣服の飾り抔を立派にハヂに致すよりは、赤十字事業の如きに盡すが貴婦人のハヂになつて居る、近く例を申せば、陛下は腰が立ず、車に召して御出だが、アウブスタ病院には、每月必ず御出になる、ケレども知らぬ人には誰れが來たか一向分らん、病室に車の音がするから出て見ると、皇后陛下で有ると云ふ樣な風ですから、王族貴族の夫人令孃等も、往々看病婦とあつて働かれて居る。左れば宮中に於て御召遣の官女抔は、三十日の暑中休暇が有ッて、入湯にでも行き歸へる、歸へるには未だ一週間も猶豫が有ると云ふ時は、直ちに病院に行き、五日なり七日なり看病して參りましたと云ふが、極く皇后の御氣に入るのです。然う云ふ風ですから、上の好む所下これより甚しきはあして、婦人社會一般に看護事業に心を寄せらるゝ事、大約ね右の如くであります。我日本に於ても、此に御臨會の各御息所を始め貴婦人各位が、此篤志看護に御熱心なるは、有事の時に我々が戰地より送り返す傷者をば、懇切に看護遊ばさるゝは、素より信じて疑はざる所であります、されば此獨乙婦人社會には決して一歩を讓りませんデス。(完)

小說

○心の浮畵

フハンシース、セウポックス(第二)

湘川漁夫譯
ホーソルン著

續き替りて現れたる、畵は皆畵工の殊更に、スミス老人を辱めんと、心を用ゐて描きたるが如し。されど其中の事柄は、外形をのみ掌る、世の法庭にて糺されなば、一つとして是ぞといふべき證據はあかるべし。中の一つは酒席の畵にて、卓の上には、取り散らされたる器あり、飲みかけの盃はほの暗く、滅えかゝりたるランプの光を反射し、時計の針は恰も十二時を指し、歡樂の最中にて、死の荒神の踏み入りしと見え一人の男は其額に重傷を受て床の上に死倒れ、又一人は怒と恐を打ち雜ぜたる、逃ぶるも凄き容貌にて、其傍に立ち居れり。立てるは即ちスミスにて、倒れたるは又、エドワード、スペンサルと名を呼べる、若き男の姿あり。スミスは甚く氣を損じ、此の不都合なる畵工は何の意ぞ、エドワード、スペ

ンサルは五十餘年も親みし我が舊來の友ならずや。我は固より言ふも愚か、誰か殺したる事ありや、五年前迄存へ居りて長き交の記念として、杖と指輪とを、形見に我に與へしにあらずや」と聲を荒らげ罵りしに、「記臆」は再び帳を探り、眸を凝らして視詰めたるは、醉に任せて亂書に書きつけたりと覺しき讀み易からぬ筆迹なり、「記臆」は前後を讀み合せ、漸く説明を下したるは、昔しスミスが壯年の血氣を强めんとスペンサルと酒酌み替せ居りたる時、風とした事より爭を起し、怒に堪へ兼ね壜を取り、相手を目懸けて、頭も破れよと投げつけし、的は外づれて後なる姿見を微塵に碎きしが、翌朝仄に覺えありて、スペンサルと手を握り、果ては笑ひて別れたる、其一場の出來事なり、此時「良心」は又忽ち身を現はし、懷劍の切先鋭く、スミスを一刺グサと刺し、其苦しめる貌をば、眉を逆立て目眼つけたり。

或る畵は只筆にて摩でたる如く、墨迹薄くして定かならず、布地の面は總て薄雲の覆へるに似て、其中の景色も人物も、浮き出づるかと思へば又忽ち、見る間に消えて迹方なし。されど其畵は如何程幽かにありとても、一つとしてスミスの身の上に拘らざるなし。スミスは頻に眼を停めて見居たりしが稍ありて見出したるは、己が形に似たる老人の、飢えたる三人の子供の、着物を剝ぎ取る畵なりけり。スミスは身の正しきを誇顏に、あらずもがなと言ふ容態にて、「訝しきは此畵なり。過言ながら此畵工は、痴者か狂妄者なり、世に立ちて我が如き身分の者が、子供の衣類を剝ぎ取るとは、笑ふべき事ならずや、といへば「記臆」は、又例の帳より探し出し、靜に囁き語れるは、スミスの心に覺のあらぬ事ならず。其子供は大なる身代の後繼なりしが、スミスも少しく關係あれば、公に訴へ出で、其身代を手に入れんと、心に潜に企てしも、己が言まいの理なきを悟り、中頃にて思ひ止めたる事ありたり。斯くとしるより「良心」は、又外套を脫ぎ却て、懷劍を拔き放てば、スミスは慌てゝ胸を壓へ、頻に撓き躁ぎしも、早や傷手を蒙りたり。

如何なれば又「想像」は、かく淺ましき事々を、態々來りて示せるや。人の心の奧をも知れる、怪しき畵工の細工は、いと巧にも描き出だせる、其幽かなる事柄は、スミスの心の内に止り、外には現れ出でざりしも、終に審判に逢ふ時は悉皆く證據の種となるべきか。其は兎も角も、心の底より湧き出づる、悔改の涙にて淸らかに洗ひ去りたれば、醜き形は消え落

ちて、布地の色は雪程白くなりたるべし。スミスは「良心」の劍に刺され、苦痛に堪へ兼ね呻吟りつゝ、風と邊を見回せば三人の客は既に去りて、身は一つ、前に變らぬ氣高き白髮の姿にて、猩々緋のカアテンの薄暗き影に坐し居りて、机の上なる書の箱も、いつしか失せて迹方もなく、前に返りて饗しきマデラの酒の載りたるのみ。されどスミスの心中には傷みの痕は尚ほ殘れり。

左はあれ老人、「良心」の酷きを悲みて、事に寄せ物に托し尚ほ頻に謝言しつゝありたるが如し。今其心に立ち入りて、思の程を寫さんに、萠せる罪の計畫は、稍物語の仕組に似たり、物語は讀者の心に、其趣向をしらせんと、過去、現在、未來を問はず、誠しやかに述べ現せど、世の罪人は左にあらで、千々に起れる其念は、皆な雲霧の影に隱れ、夢の中にて劍を拔き、夢の中にて血を流せど、現の上にはあらはさず、されば物語の惡漢と、世の中の罪人とは、想像と實際との中途にて、屢々出で逢ふ事あらん。念の移りて業となり、一度行に出で來れば、罪の知覺は共に起り、始て強く感ずるなり。若し此時に、直に悔ゆる心なくば、罪は愈々湧き出でゝ、身に毒害を流すべし。人は亦た、折々は身の過を思ひ過す事あら

んか。望の的は定かならず、其成果の分ぬ時は、空なる念は浮み出て、繰り返り來て又續き、數學の問題を解くが如く、次第に進みて遷り行き、愈々其れと逼るとも、決定心のあき時は、只其儘に止りて、胸の內にて立つ烟も、散りては雲となりぬべし。善にあれ惡にあれ、決定心の効力は、行の上に出て來りて、始て知る者なれば、念の業となる迄は、恐ろしき罪の報は身の上に、及ばぬことを知るべきか。

左はさりながら其內に、最と嚴格なる眞理あり。人は今、假令其手は淸くとも、心は汚點に汚されて、明かならずと知りたらば世の零落れたる罪人を、皆な同胞と憐むべし、其れのみならず世を去りて天の門をば敲く時、其內に入るべきは、心の都て汚れなき、者のみなれと知れよかし。「悔」は下に跪けば、「惠」は上より下り來り、黄金の門は開かるべし。(完)

佳傳

○米洲合衆國次回大統領夫人

本年四月以降、アメリカ合衆國の大統領となるべきハルリソン氏、並びに同副統領となるべきモルトン氏、の兩夫人に就ては、當今歐米に於て預じめの評判まち／＼あり。本誌にも兼ねて其一二を記るしたるが今更らに近着の米國新聞紙によりて兩夫人の肖像を刻み、併せて其畧傳を綴りて、合衆國今後四年の女海を推察せらるゝ人々の一覽に供ふ。

大統領妻ハルリソン夫人　肖像左

ヲツクスフホルド大學にて化學の敎授たりしスカツト氏の令孃たり、ハルリソン氏同大學の生徒たりし頃ろより敎授スカツト氏方に往來されたるが後の天緣の源とはなりける。今のハルリソン夫人即はち當日のスカツト孃は元と甚はだ學問を好み文思淺からず、久しくインヂアナポリス婦人文學會の會員となりて盡す所ろ多く尊とまらるゝ所亦高かりき、天性美術を好み、中にも繪畫を嗜しみて自から磁器に畫がかれたること屢ばなり、然るに其の優なる思想は啻に空漠なる文事に止まるにあらず、亦た甚たく貧しきものゝ爲に苦勞し、兼ねて孤兒院の爲めに盡力せられたること甚はだ多しと云へり。孃がハルリソン氏に嫁したるは同氏が倘ほ二十歳の時にて孃は勿論之よりも倘ほ若年なりしなり、當時所有金僅かに二百弗なり、夫妻之を以て先づ新宅を創め、或る貧しげなる家の二階を借りて住居し、夫は代言人となり妻は玆にホームを飾りたりける、爾來富みたるともあらざれば亦た左程に貧苦な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りしともなく、先づ可成りに暮し來りて扨て此度は大合衆國の惣支配人とはなりたり、此の夫妻甚はだ宗教に熱心にて常に安息日を確く守り、インヂアナポリスの或る長老教會に屬して聖書講談會又は安息日學校に欠席するとなく常に之に臨み來れりと云ふ。

副統領妻モルトン夫人　肖像右

ハルリソン夫人に比ぶれば寧ろ交際に長じたる交際的の婦人なりと云ふべし、ホドソン河の邊プーキープシーに於て生れたるが今こそ此邊りにブハッサー女大學校ありて其感化の驚ろくべきあれ其昔しは未だ決して斯る感化のあらざりしによりてか、彼のラックスフホルドの大學がハルリソン夫人に施したる如き影響はあらざりしなり、即はち此のモルトン夫人に文字を好み學問を嗜む如き氣風は大ひに欠たりと云ふ、丈宜しきに適ひ、眼は靑鼠色、色白く髮白し、五人の女子ありて長女は本年十五才なり。

○不破淸子の履歴

前橋女學校の創立者たる不破淸子は去十日產後の難やみに由つて永眠せられぬ、同子は吾社の森田豊が多年の知己にて其の信行才德には兼ねて敬慕措く能はざりし人なれば、此の報

に接して痛歎の思ひ極めて切なり。本月十日前橋紺屋町會堂に於て葬儀を執行するとき深澤利重氏が同夫人の履歴を朗讀せられたる者を得、左に掲げて少さか幽魂を慰し兼ねて森田が爲にめ其弔思を表す。

清子ハ本姓村山父を兵馬と云ひ文久三年二月二日を以て兵庫縣攝津國有馬郡三田屋敷町に生れ二歳の時其父世を辭す爾後繊弱なる母兄の手に鞠育せられ幼より三田小學に登りて孜々怠らず十三歳にして其全科を卒業せり尋でジュリヤ、ギュリキ氏の周旋する所となり神戸女學校に入るを得て學事に勉め翌明治八年洗禮を領して神恩に浴し其志益々堅確なりしが學資の給せざるより他に仕へて僅少の俸を得以て衣食に給し苦學七年終始一の如く捲まず怠らずして十五年十二月に至り二十歳の妙齡を以て發學の業を卒へ其月廿八日不破氏と合巹の典を擧げ此時より氏と偕に九州に赴き福岡及び熊本の間に往來して舅姑に事へ夫に從ひ五ヶ年の久しき福音の爲めに其身を致せしが其の福岡に在るや教會の力甚だ薄弱なるに因り其身に屬する財産ハ悉く教會の爲めに抛ち寒冷季移り衣を更むるに由なきも其夫を怨まず心身疲勞して躬から登ふの餘裕なきも節操愈々高く貧苦の艱教會の難、交々不破氏の一身に集るの時に於て能く之を勵まし之を援け傍ら一の英學校を設立して教育の業に從事せしが其の生徒を得るを百名に垂んとし稍々盛昌の域に進むとを得て僅に精神を慰藉する所ありしが哀歡交々至るハ人事の常にして其心を慰むるの暇もなく前に熊本に於て擧げたる長女愛子の夭折に遭ひ一時悲哀に沈む所となりしが主の恩寵に勵まされて益々信仰の念を鞏固にし超然得喪榮辱の境界を脫し能く忍び耐へ忠誠を擢んでしが十九年の七月に至り不破氏前橋に轉ずるとゝなりて相携さへて至る而して良人不破氏を助くると前日に異ならず此頃より前橋英學校女子部の教習を負擔し專ら婦人の地位を進むるとに意を致し同年十一月卒先して婦人會を設け心力を盡されしが是を以て未だ婦女子の地位を進むるに足らざるを知り尚ほ日夜焦慮して一の完全なる女學校を設立せんとを思ひ起し二十一年六月に至り遂に關高津等の諸氏と相謀り前橋女學校を起し爾來一層鋭意して力を本校に盡せり清子性温良にして忍耐の氣象に富み信仰の念殊に固くして愛心溢るゝが如く又能く勉強の精神に厚く自ら務むる所ありしが故に其德に薫陶せられ其行に奬勵せられ以て婦德を養ひ得たる者尠からずとせず清子二女一子を擧ぐ其の長女ハ前に福岡に於て病没し一女一男今現に在り而して昨年十二月十一日に至り分娩一子を得しが不幸にして其産輕からず爾來病蓐に就きしが十三日に至り病勢加はり日を逐て身躰疲勞し且に夕を保ち難かりしが其の信仰の念は毫も衰ふるとなく精神自若として痛苦の中に絕へず祈りを勉め枕頭に在る母と夫とを慰め勵まし新年第一の聖日にありてハ看護に從事せる夫を奬勵して會堂に赴かしめ以て其日の說教を爲さしめ且つ自から第百七十三番の讃美歌を撰びて歌ハしめたり而して病蓐に就て以來茲に三十日を經て昨九日午前第五時夫を枕頭に呼びて今將に榮光の國に入るなりと告げ悠然笑を含み可愛の長女を追ふて神の手に擧げらる享年二十有六歲

寄書

（本號餘白に乏しく此の欄を省く）

新報

（此の欄内自由に轉載を許す）

○歌御會始

去る十八日午前十時宮中に於て歌御會始を行ハせられ　御製並に詠進の歌左の如し、

水石契久

御製

さゞれ石のいはほとならん末かけていすゞの川の水ハにごらし

皇后宮御歌

よろづよの盤石にこそかゝりけれなかれ絕せぬ宇治の河なみ

二品大勲位熾親王

いしかはやせみの小河のさゞれ石のいはとなる代も君ハみるらん

故三品博經親王妃郁子

にごりなき水のひたせるさゞれ石のいはとなるまてみよハ動かし

内大臣從一位大勲位公爵臣藤原朝臣實美上

ことしよりみいけの水もうごきなきいははと共にいくよすむらん

宮内大臣從二位勲一等子爵臣源朝臣久元上

うごきなきいはねをひたす新宮のみいけの水はいくよすむらん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

苔ふかきいはまにたまるましみつもいくよかはらぬ契なるらん

侍從長正二位勲一等侯爵臣藤原朝臣實則上

いつよりのちきりなるらんいはかねのうちよりいつる谷のしたみつ

式部長官正三位勲三等侯爵臣藤原朝臣直大上

たまかはのいはねのしみつすゑなかく千代田のみやの池にたゝへん

皇太后宮大夫兼内藏頭從三位勲二等子爵臣平朝臣孫七郎上

こゝのへの雲ゐの庭のいはまよりふきいつる水は千代もつきせし

皇后宮大夫從三位勲二等子爵臣源朝臣敬三上

題者點者　御歌所長式部次官從四位勲三等男爵臣藤原朝臣正風上

いはかねになつさふ水のとこしへにたみのこゝろも君によるらん

奉行　御歌所參候侍從正四位勲三等子爵臣藤原朝臣公業上

さゝれ石のむかしをとへはいく世ともいはねにたかき水のおとかな

讀師　正二位侯爵臣藤原朝臣忠順上

うこきなきいはねをしめて湧出るみつはつきせし萬代までに

講頌　正四位伯爵臣源朝臣重朝上

さゝれ石のいはほとならんするまちてみいけの水やすみまさるらむ

講頌　從四位伯爵臣藤原朝臣公勝上

瀧のいとのなかき契や結ふらむきしのいはほはこけむしにけり

講頌　從二位子爵臣源朝臣有仲上

さゝれ石のいはほとならむ契こそみいけの水にこもりたるらめ

講師　正三位子爵臣藤原朝臣隆光上

いはかねに千世のちきりや結ふらむ雲井の庭の瀧のしらいと

發聲　從三位勲三等子爵臣大江朝臣元敏上

いはほともなるへき末をちきりてやさゝれのうへを水のゆくらむ

講頌　正四位子爵臣菅原朝臣利恒上

ゆく水のたえぬなかれにともなひてうこのさゝれもいく世へぬらむ

講頌　正五位子爵臣源朝臣忠敬上

苔むせる池のいはほのふかみとりいく世かけてか水の染けむ

奉行　御歌所參候從三位臣平朝臣信成上

さゝれ石に千代をちきりて九重の御池の水のたえせさるらん

講頌　正五位男爵臣源朝臣文仲上

いはかねの苔のみとりもおなし色になかるゝ水はいく代へぬらん

預撰歌

五百引の千引のいはにかゝりけりよろつよたえぬ瀧のしら糸

典侍從四位藤原濟子上

しめはへて神といつけるおほ岩をめくるしみつもいくよへぬらむ

御歌所勤務宮内屬臣藤原朝臣祐命上

おちたきつたきの岩かとなれにけりいくよかゝれる水にか有るらむ

御歌所勤務宮内屬正七位臣藤原朝臣勤上

河上のゆついはむらのこけひたす水のなかれもいくよへぬらむ

京都府平民　尾崎宍夫上

さゝれ石のこれやむかしの友ならむいはねはなれぬ山川の水

千葉縣平民　村林繁枝上

淵にしつむいはほへいつのよになかれとまりしさゝれなるらん

愛知縣平民　伊木文七上

君か代のためしにひかむ動きなきいはほにかゝる瀧のしらいと

島根縣平民　原居千代太郎上

―――――

○高等女學校擴張

高等女學校擴張、即はち學年と學期とを增加するの一事は、略ぼ内決したる如し、既に東京府に於て高等女學校と稱するを特別に設けられたる以上は、元の高等女學校に於て少なくとも其の學年を長くせらるゝは當然の事あり、而して何如なる私立の女學校にても大抵五年以上九年以下の學年を經て卒業するの有様なれば、政府に於て特に高等の二字を冠らしめたる學校が、僅かに五年位の學科にて不足あるは尤の事なり、故に吾人は此度の改正計畫に贊成し且之を喜こぶものあり。然れども、一の茲に申したき事あり、今ま女學校の斯く迄に

多くある時世に於て政府が特別に一つの女學校を設くると云はゞ、之に何かの必要なくては成らず、若し細かに吟味して其の必要なるものを詮索せば、先私立女學校に於て教授することの出來ぬ高等の學科を教授する位ひなるべし（之とて大本理より云へば眞に必要と云ふにはあらねど）故に高等女學校は、今の私立女學校多き時世に當り、尚又府縣に多くの高等女學校ある時世に當りては、先づ年限を二三年にして只だ高等の學科をのみ教授するの女子大學に改むべし、而して國民に對し言譯あるなれ、教育時論の記者は此上の擴張を不必用なりと切論したり、然れども吾人は之を擴張して其の裾を立切れよとのみ申す。

○官立學校の月謝增加せらる

官立學校の月謝安ければ大ひなる害あり、大凡そ國民が何か特別の事情によつて特別の學校を開かんとを政府に懇願し、政府は國民の特別なる事情に由て特別に其學校を開きたるの日にあらずんば、何も特更ら國庫より補助を下して其學校の月謝を安くするに及ばず、故に吾人は彼の帝國大學すらも必らず自給の地位に立つべし國民は其の租税の多くを之に消費せられて而して多くの學士を製造する爲に月謝を安くして貰うの必要を見ずと確認したり、况んや其他の學校をや、况んや斯く女學校民間に多きの時代に於て女學校に助くるをや、すべて尤も適したる尤も立派なる者は放任しても生殘る也、之を世話せねば成立ぬと云ふは元と之を成立しむべきものにあらず、何如なる事業にても金を遣へば出來る也、金を少しく費して而して立派なることをするが則はち利巧なる所ろ也、官立學校が巍然として聳ゆるは少しも誇る所ろなし、其の巍然となからしめられたる學校が多少の功能を爲すは亦少しも誇るべき所にあらず、

斯樣に久しく考へ居りたる所ろ、文部大臣は此度大英斷を行はれ諸官立學校の月謝を非常に高くせられたり、其中女學に關係する三の學校に就て之を見れば、

校名	從來年謝金	改正年謝金	遞加末年
高等女學校	二圓	五十圓	廿七年
美術學校	一圓	三十圓	廿五年
音樂學校	一圓	三十圓	廿五年

如此き增加なり、而して此の增加を一時に決行しては大ひなる迷惑ありとてか、本年以後年々に遞加して遂に明治廿五年又は廿七年に至りて此の通りに徵收せらるゝと云ふ。何故に

同年迄て延ばさるゝか吾人之を知らず、少なくとも何故に今年后に入學するものより左樣には爲れぬか吾人之を知らず、然しまづ〳〵事理に近づきたるの斷行として賀すべし〳〵。

○批評及びあらみ

批評の術追々盛んになり來る、此の所ろ女性が尤も長所を示すべき區域なれば、吾人は女流中にもまた段々と批評家の出んことを望む也、然るに近頃の批評は寧ろ金砂を拾ふものにあらずしてアラを見出すもの也、眞正の批評は決して如此きものにあらず。然るに知玉叢誌に小說のあら見と題し（批評と申さうよりは寧ろ、と言別して）當今文學社會に現はれたる惣ての小說家を評したるものあり、中々の目利にて感服したり、同叢誌は餘り世人が知らぬに付茲に其評中、美妙齋及春の舍二君に關するの條を拔抄すべし

美妙齋主人　胡蝶の趣向は極妙です。か緒言に一厘一毛も事實を枉げない云々とあるから私は平家物語の書拔きと經房卿の古文書の御浚ひでもされるのかと思つて、有らずも哉と思つて居ましたが、本文を讀んで見ると、實際有つた事の分子よりか作り話の方が多いのを發見しました。併し其方を私は望んで居ました。人物の言葉はその時代の口氣を寫しましたとあるが受取り惜い言葉遣いが多い樣です。一番火烈いのは「能登守だに死にたるよ」の句です。其頃の人なればダニとは言ひますまい、どうしてもサヘト言ふ筈です。本文の中にも少し耳障りな所があります「箭玉の雨は恐ろし〳〵とあります……箭玉……玉とは彈丸です。斯では彈丸が飛で來る躰です、ハテ彈丸が此時代に……。胡蝶が太郎春風……後に改名して次郎春風を殺さうとして、躊躇する所は、善く書かれました。愛の情は、女の眞の愛情は斯でせう。「其許の首級を携へて御門ヲ此身の眞心を切めて一言なりと冊に參らせ、さてしも後は同じ刃、同じ刀に死ねばかりよ」とあつて。結果を讀むと「其後を托鉢して居る尼」とあります。して見ると胡蝶はいつか初めの心を變へたと見ねます。「其處は女の心、否、死を厭ふのは人情の常。夫を省筆法で顯はしたのです。」と答辯されては、發矢、私が無理ですか。

春の舍主人　近來高作を拜見する事を得ず遺憾に思ひ居りしに國民の友へ久し振にて現出されたり「細君」の作流石は老將軍の腕前なり人々の性質を區別して細かい處を寫出すは感服々々「夫人の名望は凄ましかりき」及び「ムラ〳〵と又湧さかへる無量の恨」或は「身の現在の悲さに」など長たらしき言句を用ひず片言隻語を以て言ふべからざるの情を寫すは御得意の處と賛賞す惡口連がチト美妙齋流に感染したりと評するは寃罪なるべし。

○衣通姬

衣通姬とは人の名にあらず古しへ美人の稱號ありしなり、上古は自から名付くることはなく他より其容貌行爲としては居地などを以て呼べるが自然名となれるなり、允恭帝の時衣通姬と云へる人二人ありこの外にもあるべけれど物に傳らぬなるべし、源平盛衰記に平淸盛の第五の息女近衞殿下基道公の北政所形ち嚴くして水精の玉を薄衣につゝみたる樣に御衣も透通て見ければ父相國も異名にハ衣通姬とぞ呼れける、殿下も角と仰せければ北政所も我御名と心得て答ましまして互に咲ひ語ひけりと見ゆ古へも此類なるべし。前の知玉叢誌第十九號に狩野由之氏の說として見ゆ。

○小說家の退學

近來一雨〳〵に小說家の萌え出づる夥しき中に、兼ねて文名を轟かしたる先輩は追々に退學せらるゝが如し。二葉亭四迷君は當今浮雲第三篇の著作に從事し、特にお淸か文三を信徒にせんとて宗敎の事迄も研究中の趣きなるが、元來此の浮雲には小說上尤も寫し易き人物をのみ寫し出したれば、假令ひ非常の喝采を博するとも良心に不快の感あり、况してや他に厭足らざる箇條多しと云つて殆んど斷念せらるゝよし也、左れば先づ右三篇を幸にして脫稿したる後ちは（聞く既に二回迄て書改めたりと）出來べき限りに硏究して尤も寫し難き人物を寫し見んとの計畫ある由し、當今英學修業中にて追々獨逸學をも修めんとの意氣込也。春の舍君も亦た彼の國民之友に出したる「細君」（此篇素と三回迄で書改められたるあり）を以て小說の筆を絕ち向後小說社界に春の舍と云へるもの丶名なからしめよと或人に述懐したり。虎の嘯らんとする先づ空氣を吸込む、二君が他日に大に發せんとして今日に一締せらるゝは今の流行文學世界に於て尤も賀すべきこと也。

○印度賣淫禁止論の運動

英國民中に印度に於ける賣淫公許を禁止すべしとの議論益々勢力を得つゝ來る、前號に記載したる如き會合の出來たる外に、公けに私しに之が爲に盡力するもの多し。特に去年十一月十七日、老度ランスドゥーン侯が向后五年間の印度の副王兼大知事として任に趣かるゝに當つては、二千八百五十八の有志者は一篇の願書に各々記名調印して、切に印度國賣淫公許の法律を全廢せんとを請へり、其の文中に云く、印度には一千八百六十四年の條例第二十二條、同千八百六十八年の條例第十四條（即ち印度楳毒條例）、同千八百八十年の條例第三條に由て今に賣淫公許せらるゝと也、然るに英國に於ては過る二十年間の實驗により如此き條例の存するは彌よ社會の不德を增加するものと認定して去年彼の楳毒撿查條例を全廢したるほどなれば印度に於て倘は之に均しき條例の存するは亦是れ同樣の害あつて一の益なきものと認ため昨年六月五日我下院に於ては全會一致を以て左の如く議決したり

當院の見込に由れば印度に於て强迫撿查及び賣淫公許取締等に關する處置を中止したる丈にては未だ可ならず更に進んで如此き處置を許す所ろの法律を全廢せざる可らず、

然るに印度に於ては實際其の議決に應ずる取扱を爲さず只だ千八百六十八年の條例第十四條を取消したりと云へども之は

此れ印度内の二ヶ所に關するのみにて他に大なる影響なし彼の屯營制度條例（蓋し兵隊を屯したる近邊に於て特に撿査を行ふの條例なるべし）の如きは今に尚ほ存して實施せらるゝ所ろ多しときく閣下行かば乞ふ四ヶ月前下院の議決をして徒爲たらしめ玉ふ勿れ、又請ふらくは印度刑法を改正し印度の女子年齢十六歳に至る迄は禁情年限と定めて我英國に於ける如く妙齢女子が不德の男子に犯さるゝの惡毒を防ぎ玉へ云々とありし由あり。

○慈惠產婆學校　今度三番町に設けられたる同校は高原のぶ夫人の創立に係るものによし同夫人は數多の子女を敎育せん爲に態々上京し多忙間に遂に產婆科を修鍊卒業して專ぱら慈善主義により敎授せらるゝと云へり。

○保姆練習所再設の出願　芝麻布兩區の幼稚園にては同園内にありし東京教育會附屬の保姆練習所を去る八日京橋區幼稚園へ引移されしかは別に同園へ一の該練習所を設立したき旨近藤園長より東京府廳に出願したる由。

○教諭の轉任　東京府尋常師範學校教諭棚谷祐晉氏は去る十六日東京高等女學校教諭に轉任せられたり。

○宮城看護婦人會　宮城縣下の有志者は去る十五日午后二時より縣會議事堂に於て篤志看護婦人會を開き伊部一等軍醫林一等軍醫中泉一等軍醫等の演說あり了て繃帶の實習を爲し散會せしは午后五時なりし由にて當日の來會者は百五十余名なりしと云ふ。

○八坂新地女紅塲の始業式　京都八坂新地の女紅塲は去る十六日に始業式を執行せられたる由にて其生徒なる藝娼妓は總て白襟三枚衣裳の禮服にて出塲し昨年間勉强せしものへは紅白與縮扇子等の賞與あり式終つて歌舞音曲等も有之頗る盛會なりし由。

○產婆免狀下附　京都府下にて此度内務省より免狀を下附せられたる人名は左の如し。

安田てる　安田ゑい　中村なつ　西川よつ　川勝きぬ　加藤かつ

○私立千葉產婆學校開校式　豫て本誌に掲載したる高梨みつ子の設立に係る產婆學校は今般新築落成に付き去る十三日を以て開校式を執行せられたり當日來客は男女合せて百餘名にして石田縣知事も臨塲せられし由。

○ジエン、カスパリ孃の就眠　大坂聖公會附屬の女學校教師たりしジエン、カスパリ孃は去月十八日神戶に於て就眠せられたり孃は曾て亞弗利加の西岸にて黑人中に傳道し其後病氣にて英國に歸り一千八百八十一年の夏日本に來り始め箱館にありしが後大坂に來り熱心以て主の爲め勉められたるに今異域の露と消えられしは惜みても尙ほ餘あることこそ。

○桑名女紅塲　桑名女紅塲は當時敎員一名、女敎員一名にて習字、算術、裁縫の三科を敎へ生徒は藝妓四十三名、娼妓百九十二名なり隔日に出所し尙ほ遠からず讀書の一科を加ると云ふ。○近江婦人慈善會は去る廿日大津商工會議所に於て開かれたる由○江州彦根なる私立淑海女學校は去る十日を以て盛なる始業式を執行したり○山形縣米澤の有志者は私立米澤英和女學校なるものを設立し去る十五日開校の典を擧げられたり。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○英國女王に書を上る　傳道ルーセラン教會の大會より英國女王陛下に書を上まつり英領印度に娼妓を公許するは非常の不德にして該國民の道德を打立るに莫大の障碍なり特に神の御律法に反くの法制にして尤も恐るべき也との主旨を書したる由。

○出版書目　先月中官報を以て廣告せられたる書籍の中にて女子に關するものを擧ぐれば左の如し

和文敎科書	八冊	著作者　發行者	下田歌子　宮川保全	東京
大日本織物誌	一冊	著作者　發行者	須永金三郎　大橋佐平	東京
父兄必讀 家庭敎育鏡	一冊	著作兼發行者	渡邊金助	神奈川縣
敎育學	一冊	發行者	市川かめ	東京
明治唱歌二集	一冊	編輯者　發行者	奥好義外　宮川保全	東京
かあわはせ	一冊	著作兼發行者	佐々木建彦	東京
婦人をよび家政	一冊	編輯兼發行者	民友社	東京

小供談

○蜘蛛のはなし

蜘蛛は大相いくさの好な虫でして、自分の仲間とでも他とでも始終喧嘩をします。夫故へ頭にも胸にも強よい甲ひを着て居て、其上へ全躰に軟らかな衣物を纒うて居ますが、之は中々丈夫なもので、外の虫がイクラ嚙み破らうとしても一寸とには破れません。あの蜂ですら其の針を此の甲ひや着物の中に刺し通すとは出來ない程です、夫に又其の手足の頭には蟹のような尖つた爪を附て居て尚又其手足が長いのですから、敵を遙か彼方に押し遣つて中々近くは寄せないです。目は一つや二つではなく左右の兩眼にはそれ〲五つ六つの目が集まつて居ます、夫故前から來る敵も後ろから來る敵も何處から來る敵も直に見へて四方八面に光つたガラスの鏡を備へ附たようなもので、口の中には鋭どい鋏の如きものを含み敵の躰だを直樣切り破ぶるとが出來るようになつて居る。而してイザと云はゞ口から網を吐出し、敵に覆ひかぶせて殺ろすような道具も備わつて居る。

斯樣に色々な物の具があつて、辨慶の七ツ道具でも中々及ばない程に澤山の武器があるのですが、然し此等にも優つて尚ほ蜘蛛に第一の助けとなるものは蜘蛛の巣です。

蜘蛛の巣と云ふものは皆さん大抵は御承知でせうが、然し此の巣の造り方は未だ御覽なさらない方が多いでせう、其の造り方が實に不思議です、先づ壁か木のような所ろへ口から一滴のシルを吐出して着ます、すると暫時にして此のシルが乾いて固まります、之が巣の糸を結びつける大元となるのです扨て此の大元に糸の端をつけ、夫から蜘蛛は自分の躰を宙に吊るし振ら下りて段々に糸を長くしますが、扨て一方の端を着ける所ろに行つたのちにあの緩んだ糸を段々に引張りて眞直な絲となし、今度は之を渡つて又た第二の線を引張り、更に第三の線を引張り、追々とあちらこちらに引張り遂に立派な細かな巣を造るのである、巣の出來たては糸がまだ軟らかですから密着易いです、而して乾くと固くなつて甚はだ丈夫な巣になるのです、中々一寸した虫などには破れないほどの強よい網になるのです。之から尚はおひ〲と蜘蛛の面白ろひお話しを致しませう。

事務を爲すとは道路を行くに喩ふ
最も近き道は最も無礙なるもの也
ベーコン。

○女子教育の困難　高等女學校々長　矢田部良吉述

植木屋が植木を作りて色々の花を咲かせますが、左樣にするには必ず植物の自然の道理に差はぬ樣、只今ナップ氏が述べられたる如く巧に楫を取るから出きるのです。又醫者が病を療すにも、患者が有する自然の恢復力を助けて、藥を與へ術を施し療治するからの事です。植木屋も醫者も昔しハ經驗バかりで藝術を施したが、今日は經驗ばかりでなく試驗と云ふ者をします、試驗と推理とによりて技藝を進歩さする樣になり、植物の解剖學植物の生理學が次第に進むに從て、如何にして植物が成立つか、如何にして成長するかと云ふ事が次第に解つて來ましたから、色々の試驗が出きまして、其結果を園藝に施す事が出きます。又人身の生理學解剖學が進むに從て、人のからだは如何にして出來るとか、如何にして病氣になるとか云ふ事が次第に解つたから、醫術も亦園藝と同じく進みたるのであります。

我國の女子教育に於ても、亦園藝醫術など同じく、昔しから經驗もあります。併し今日の樣に女子教育の必要を感じたる時代は我國の今迄には無かつたのです、是れは私が今申すにも及びません事ですが、近頃になつては國の開化の度を進るには、能き母を拵へなければならぬ、能き母を作るは最とも必要なる事で、國民の道徳を進むるには女子を教育し高尚にする事が第一であると、新聞や雜誌若しくハ演說に述ぶる人が多き樣になりました。然るに爾來我邦に於て婦人の占めた地位と云ふ者が、現今識者が婦人の爲めに望む所の地位よりも遙かに低きものであつたから、婦人の教育ハ全く爾來の經驗にのみ據る事も出きぬと云ふ有樣になつて居りました。最も昔しの女子教育は殘らず惡るい、徹頭徹尾宜しくないと云ふのでは無いが、今日から之を觀れば、惡るい所も亦不足なる所もある故に、今日女子教育に心を用ゆる人は、全く古るき仕方にのみ據る事は出きぬから、新に案を立てなければならん。然らば歐羅巴亞米利加の風を輸入すれば何の譯もない容易きとであると云ふ人があるかも知れぬ、併しながら歐米と云ても、其婦人の有樣を研究すれば、獨逸、佛蘭西、英吉利、合衆國皆ソレ〲に違ふ所がありますから、一概に歐米と云ふ事には往きません。且つ又我國にも、自ら固有の性質がありますから、何も彼も歐米の通りにする事は今日の有樣でハ迚も出きることでハ無いと云ふ事も、能く解かりきつたことであります。ソレ故に是れ迄の經驗のうちで、採るべきとハ勿論採らなければならぬのであり升けれども、亦歐米の經驗をも廣く考て、其上試驗もしなければならん然らば園藝

醫術の如き者の試驗の樣に、十分の試驗ハ到底爲すとハ出きないが、適當の試驗を爲す事ハ最も必要です、此の試驗によりて、完全の結果を得る樣にしなければならんと思ふのです。維新以來の女學は、皆實際、試驗的の學校であつたと申しても宜しいと思ひます。彼の園藝家が立派の植木を培養して造り上る樣に、女子の身躰と精神との發育が、自然の規律に從て其の發達の力を贊け、完美なる者にしやうと云ふに當てハ色々に考へなければならぬ事が出きて來る、又隨分六ケ敷きとが起ッて來る、今其一ッ二ッを申し上げ樣と存じます。

女子の躰質は男子より弱い、又男子と違ッて生理上に大切の役目がある、其役目の爲めに複雜たる機關を具へて居る、然るに中學の程度位の教育を受る頃になれバ、恰も其機關が發育するの年齡に當るものだから、若し男子同樣に從事さする時は、身躰の發育に大害を起すとがあると云ふ説ハ、外國の經驗にも明かの樣である。とは生理上斯くなければならぬとであらうと思ふ、身躰の使用にハ限りがあるから、一方の機關が發育する時ハ、必ず其爲めに多分の使用を要するに相違ない、然るに之を他の一方ある腦髓のみを疲らし勞する時ハ其生殖すべき所の者は十分に發育するとは出きないで、身躰の釣合がつかなくなると云ふは、實に有りさうな事です、シテ見れバ、學科の種類、就學の時間等も、男子とハ大に違う樣にしなければならん、又違へるのが肝要になるのです。

併しドの位まで違ッて宜しいかと云ふとハ、仲々六ケ敷きとで、若しも學科が難きに過ぎ、又就學の時間が多きに過ぎる時ハ、身躰の害になるは申すまでも無きとである。又學科が易く、就學の時間が少なきに過ぎる時は、倏ち怠惰の風を起して往けなくなるのです。其所を程よくして、身躰にも精神にも障礙なく、十分に發育させやうとすれば、學科の難易時間の釣合が程よくなければならぬ。程よくと云へば只一口ではあるが、學校の種類によつても違ひます、例へば平民士族の中等のものだとか、又華族などの最上等なる社會より出て居るものだとか、又同じ中等社會の者でも其入學の時に身躰の驗査を爲して拔擢したる者だとか、ソレ等の所を充分に熟考しなければならん。且つ又教師の手加減と云ふ事が大事で、何學に拘はらず、生徒に適るだけの事を教授するの注意が無ければならん、ソレ故に全躰の女子の躰質上よりしても適當の教育法を施す事は、決して易き事ではなく、容易に定め得らるゝものでは無い。此等の事を實施しやうとすれば、老練の教師で無けれバ出きる事ではなく、重に詰め込みたがるの弊がある。概して云へば、女生徒は男子より重に質問など

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

をします、ソレからソレと質問するに當り、老練ある教師はよき程の點で質問を留める事をやりますが、若き教師などに於ては、質問せられて答へないでは知らない様に見ゆるから耻と云ふ様な感覺を出しますから、何處までもこたへ様とする、左すれば次第に詳しくなつて女生は教師が教へたゞけを皆覺へなければならぬと云ふ様な感じを起し易い、是れも女の性である、而して愈々學ぶ所は六ヶ敷くなると云ふ様な事がある、ソレ故遣り方がナカ〳〵六ケしいのであります。

前に申した通り、女子には母となるの務めがあるから、大古草昧の時代に生存競爭の折からも、腕力を發達せしむるとが出きなかつたから、始終男子の保護を受けた。故に躰質は著るしく弱く、違ひを生じた、是も亦生理上已むを得ない事でもあり、又人類の發達に利益もありたる事で、男は剛となり、女は柔となり、遂に是れが其の特性となり、剛柔相和して圓滑になるのだから之も益のある事です。

テ男子と女子との精神上の違ひの一二を擧れば、女は一寸物事の表面を見て判斷を下すとが速い之は男子の遠く及ばざる所であるが、又物事の道理を探究し熟慮して始めて理解することは女子は迚も男子に及びません、之を要するに、感情にかゝる事は女子は頗る英敏である、併し智力にかゝる事は男子に敵ひません、又愛情と云ふ點に至ては、女子は男子に比して最も切に餘程に深い、其仔細は女子は母となつて子を養育すると云ふに原因するので、是れから起ッたに相違ないと思ふ、又女子は男子より愼み深く品行が宜ろしいと云ふことがある、又或る種類の諸藝は倦まずにすると云ふ、此等の良好ある性質を稟けて生れて居るのです、其愼みの深きは如何なる所から起ッたかと云へば、大古より女子は男子の壓抑を受けて居るから、次第に從順に愼み深くあつた事と思ふ、又諸藝に倦まず而も其巧みなる原因は、女は太古より家に留りて細かき事のみを爲し居りたれば、自然男子よりも巧みあるのであらう、又男子よりも饒舌だとか怨むとか云ふ惡しき性質もある。箇樣に精神上に色々の違ひがあるから、女子の教育を引受け程よく導くには、男子の教育には無い一種の困難が起る、一寸した例を擧れば、女子に思はしからぬ事があれば、之を理解させやうとして話しをする、ケレドモ其感じの英敏なるが爲めに、忽ち泣き出す、泣けば理も非も解からんと云ふ様なことになる、男子には是れは少ない。併しながら前に申した所の女子の性質は皆さうだと云ふのではない、一人も殘らずさうだと云ふ譯ではないが、併し大抵然うであらうと思ふのです、男子にも隨分女子の様なものがあるから、ソ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

しと同じく女子にも男子の樣な者があるには相違ない、併し私は之を例外と見て申すのです。

左れど諸君が私の今申した事よりして、女子は男子に劣ると云ふ樣な感じを起されては迷惑です、私は決して女子は男子に劣るとは思はぬ、男子は智力を以て長じ、女子は情緒を以て優れて居る、人間社會には智力も情緒も頗る大切なるので決して道理ばかりで出きて居る社會と思ふては違ふ、此の二ツが相和して始めて完全のものになる、則ち男子は男子で秀でたる所があり、女子は女子で秀でたる所がある、故に何れが宜しいと云ふ事は固より言はれぬ事であるのです。然して人間が疎暴を避けて優美となると云ふは全く女子の德であらふと思ふ、又私の如き一書生すら尙ほ憐れを催し慈愛の念を萌すことのあるのは、全くなさけ深き母親の敎育を受けたからであらうと思ふ、若しも世の中に母親の慈みなき時は、果して如何になり行くかは知れぬ、實に大切のものであるのです、且つ又男子の働くべき區域と、女子の働くべき區域とは全く違ひ居るから、男子の事が女子に出きぬからとて、直に劣等と爲すことは出きぬ、又男子に女子の事が出きぬからとて、直に劣等なりと爲すことも出きません。

扨て男子と女子とは身體の組織も、又精神の性質も違つて居るから、其敎育のし方も違はなければならん。併し女子敎育と云へる事は近頃起りたる事で、まだ經驗も少ないから、從て總てが六ケ敷と云ふ事は前に簡單に申しました。箇樣の違ひがありますから、敎育上用ゆる所の學科にも違ひが無ければならん、然しながら男子と女子とは月と鼈ほど差うと云ふ譯ではありません、敎授する敎科書も、敎ゆる學科も、全く違へなければならんと云ふのではなく、唯學科の數、分量を異にしなければならんと思ふのです。」前にも申しましたる通り物事を一寸考へて判斷するは女子の得手だけれども、之を深思熟慮することは最も不得手の所ろであるから、數學の如きは女子の苦しむ所である。物理學化學なども同樣。動物植物の學の如きは兎角名稱の暗記に流れ易い、實物に就ての研究は不得手の樣に思はれます、併しそは、日本の學校生徒の通弊と思ひますから、強ち女子のみと云ふことは出きない。歷史などはナカ〳〵能く暗記します。又外國語などを學ぶときは、發音を始め總てが男子より早く能く出きる（最もこは易き書物を讀む間の事であるが）。又た男子は、文法上などに於ては女子よりも能く出きる、是れは解剖的の者だから女子には餘り能くない樣です。音樂に至りては女子の最も得意とする所、左りながら高尙なる音樂に至りては未だ孰れか解か

りません。又手藝は男子の學校にはありませんから比較は出きませんが、女子は何れも巧みに遣ります、圖畫も亦女子の方が上手です、ケレ共其の高尚なる圖畫に至りては然うも言はれまいと思ふ。又身躰の裝飾と云へる事も一種の技術で、衣服の色のてり合せなどの道理を知るべきだが、是れは女子の長所です、所謂配合間の撰擇と云ふ事からかやうになつたものと思ふ、孔雀の如き鳥類に於ては配合を撰む權は雌にある、故に雄のかたちは次第に立派になつて來て、今までは實に眼を驚かすばかりの羽毛となつた、然るに人間には男の方に撰擇の權があるから、女子は次第に裝飾も上手になつた事と思ふ。

先づザツト右樣な譯だから、數學理學などを以て女子を責るのは如何かと思ふ、固より或點までは是等の學問は女子に必要であるが、性質に合はぬ學問で苦しむるよりも、性質に合うた科目を能く敎ゆる方が宜しいと思ひます、箇樣な學問よりも文學語學などを以て重に敎ゆる方がよろしい、加之裁縫割烹手藝の如き者は最も女子に敎ゆべきものと思ふ。故に彼我の學科に用ゆべき時間の割合、若しくは總躰の學科の時間を、能く考へなければならぬ事であるのです、ソレには實に容易の事では無い、全く經驗に因て定めなければ、十分の結果を得る事は出きぬ。

特に私が爰に一言したきは英語科のことです、私などは兎に角少しの智識を得まして、學校職員の職を奉ずる事も出き、諸君の前にて御話しする事も出きると云ふは、如何なる故ぞと問ふて見れば、そは全く外國語に通じて居ると云ふのが第一の原因と思ふ。我國今日の有樣では、外國語を學ばなければ到底新智識を得る事は出きぬと思ふ、ソレ故小學校の課目の中にも加へてあるのですが、女子とても昔しの通り卑屈にして置て宜しいなれば固より語學を學ぶにも及びませんが、女子も男子も共に偕に進まなければ我國を開明の域に達する事が出きぬと云ふなれば、女子をして男子と同じく外國語を學ばしむるの必要があらうと思ふのです。既に女子とても之を學ぶが必要だとすれば、外國語のうちで何れが最も學ぶに適當であるかと云ふ問題が起る、私の考る所にては、英語こそ最も適當であると思ふ、男女に拘はらず東洋に於ては外國語を學ぶなれば英語が第一に便利です。其譯は私が申すまでもなく、英語の女子に適當なる理由は、此一般の理由より外に、尙ほ一の理屈があらうと思ふ、ソハ、外の譯でも御座いません、世界の國々の女子中では、アングロサクソン(英米)人種の女子が一番進んで居る、ソレ故我國の婦人を導くにも

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

矢張アングロサクソン人を目的とするが得策であらうと思ふ其の爲めには英語に通ずるのが宜しいと云ふのは勿論であらうと思ひます。併しながら女子が英語を學びまするにも、リードルの二三册を習へばソレで宜しいと申すのでは無い、少しばかり之を咬るなれば、寧ろ咬じらぬがましです、ソレこそ時間を空費するだけて、役には立たぬが、若し學ぶなれば、歴史や小說を獨り讀む事が出きる位にしなければならん、換言すれば、英語を以て新智識を得るくらひにしなければならぬのです。元來外國語の學問を脩むるのは、心を練ると云ふソレも有りませうが、實は智識を得る道具であるのです、此の道具を使用しまするには、少しばかり咬ッても役には立たぬ、リードルの一二册位にとゞむるならば甚だ無益と思ふのです。

ア女子敎育に一ツの問題が起る、前に申した樣に色〻の學問を敎ゆるに當て、英語はドの位の割合に敎へたら宜からうか、高等小學から始めて、中學の課程を終れば、六七年の間だが一週何時間之を敎へたならば英書の獨り讀が出來る樣になるだらうか、成べく會話も一通り差支へない樣にしたいと云ふ事を考へた所が、甚だ時間の割合が大切になるのです。御承知の通り、中學の課程には、國語と云ふ者もある、其外必要の學科があるから、他の學科を修むるの害になる迄に、英語を增す事は出きません、且つ又女子の中學と男子の中學とは其の課程に余程の違ひがありますから、男子の中學を以て直に標準と爲すことは出きません。近頃は小學校にも英語を加ゆることが流行となりましたが、是等の事を考へずに、無茶苦茶に時間を定むる事は出きません、或は中には在ると云ふが、私は實際其樣なとはあるまいと思ふケレ共、私の考とマルデ違ッた學校が無いでもないのです。又時間割を定めても敎へかたが色々あります、如何にして敎へたならば女子の進歩は早いであらうか、下手の敎へかたをすれば、生徒は幾年たつても鸚鵡の如くに英語の口眞似は致しても意味は少しも解からんと云ふ學校がある、又意味がドウにか解ッても、發音が無茶苦茶の學校もある、左樣な敎へかたなれば、無論敎へない方がよろしいと思ふ。

今一ツ女子が英語を修むるの必要がある、是れは少し贅澤かは知らんが、能く考へるとさうでない、何れも開明の世となれば小說を好んで讀むと云ふ事がある、男子も同樣だが、就中女子に於ては、英吉利でも亞米利加でも好んで小說を讀むのである。然るに、日本は未だ是れぞと云ふ小說は出きない、私は暑を避け溫泉塲などに參るときは、折々小說を手に

取て見ますが、其小說たる猥褻にあらざれば必ず拙劣、殆んど見るを厭ふ程の者のみである、併し現今は追々小說家も增加したから定めて立派の小說も出きたではありませうが、私は未だ視ませんから、何とも言ふとは出きませんが、何れにしても、英吉利のジョージエリオットとか、サッカレーとか或はヂキレーとか云ふ如き小說家は、日本には未だ出きぬと思ひます。古るき小說の中では、八犬傳などが最も優れて居る者ではあるが、誠に古風でありますから今日のノーベルと云ふ者とは大に趣を異にして居ります。又源氏物語の如きは文章は優美で和學者などの珍重する小說ではある、併し如何にも猥褻を極めたもので、若き女子の見るべき本では無い、近頃の女學校でもマサカに源氏を敎課書に用ゆることもありませんが、和學先生の許へ歌を學びに出かけると、先づ源氏を讀ませ、其の講釋を聞かせると云ふが通常のことである、實に是れは困ると私は考へて居るのです。ソレ故に箇樣の書物は公私を論ぜず、總て小學校に於ては、文部省で讀むことを禁ずると云ふほうが世の爲めに宜しいと思ふのです。左れば我國の中等以上に生れた女子は、小說を讀み得るだけに英語を學んだならば、其快樂の增すこと如何ばかりか知れないと思ひます、英國又は米國より月々雜誌類の來るのを樂みとするだけに英語を解しましたならば、純粹なる而も淸潔なる美術的の小說を讀むことが出きたならば、育兒の事、家政の事、すべて婦人に大切なる事に就て、又其他色々の事柄に就ても、智識を增進することが出きますから、其身の地位は益々高くなる譯です。

扨て少し又話しの筋は替りますが、今我邦の社會と申す者は、移りかわりの最中であり、古るき主義がすたれて、新らしき主義が次第に起る世の中ですから、女子が身を處するに當て、昔しになき困難がある、古風なる舅姑に對して、親族に對して、圓滑なる處置を爲す爲めには、幾分か自分の主義をまげなければならぬ事がある、又夫に對しても、身の處し方が甚だ六ヶ敷い。就ては、學校に於て是れを敎へ込む事が大事である、口にて言ふは甚だ易いが、實際に於ては容易に爲し得らるゝものではない、身分に就ても亦其人に就ても考へなければならん。故に女學校の管理者若しくは敎員が、此點に充分心を用ゐやうとすれば、餘程困難を感じます、左れど飽までも此の困難には打勝たなければならぬ事と思ひます。又平常の所業に就ても出過ぎにもせず、卑屈にもせず、又活潑に過ぎもせず、從順に過ぎもせず、程よく立振舞を爲すことは、口に言へば實に容易だが、ナカ／＼容易ではありません、彼

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の亞米利加などでは、女流が甚だ威張り出しまして、男女共に國民だから政治上の投票權が無ければならぬと演る者もあります、さうかと思へば、又女子に投票權を與へて眞人と反對の投票を致す如きとがありては、家内不和の基になるから害があると主張する者もある、又投票の數が多くあるばかりで益には立たぬと攻撃する者もあつて、議論は段々八釜しくあつた。日本には未だ箇樣に出沙張る女流もありますまいが、追々右樣の事も西洋から輸入するに相違ないと思ひます、左るからに、女子の程よきと云ふ事は益々六ケしくあります。

倘ほ又此等は女學校を管理する者は皆存じて居る事だが、女子には非常の競爭心がある、是れは男子より一層激しいので、試驗などと聞くと、明かに健康を損ふことは知つて居ても非常の勉強をして夜も寢ないと云ふ樣なことが澤山ある、又其心が盛になつて來れば、殆んど嫉妬心の如き者が起る、固より程よき競爭心ハ好き事で、敎員ハ之を利用しなければならんのだが、何の點まで之を利用する樣に學校の仕組みを施すか之を能く考へなければならん。而して一ト度競爭心が激しくある時は、爲めに朋友の情を害ふ樣になる、一躰朋友の情は、今の女學校生徒には薄いと思ふ、全躰男子でも朋友の情が近頃薄くなつたと思ひ升が、併し女子に於ては必ず嫁に行くと云ふ事があり嫁に行きたる後は其平生交際する人も以前とは替つて仕舞うとも是れまでありがちだから朋友の情も男子程では無いか知れぬソレは私の知らざる所です。

終りに、女學校敎員の事だが、女子ハ女子が宜しいと申すが、今日でハ未だ必ず然りとも言へない、我國の今日の女學校は言はゞ皆試驗中の如き者で、創業の際である、ソレ故に男子をも加へて色〻の事を實驗する方が宜しいかとも思はれる、併し守成の時に至てハ、女子の方が宜しいでありませうが、何れにしてもまだ女子ハ人物の少なき時代でありますから、全く女子にのみ任せる事ハ出きぬと思ふ。ケレ共、學科によりてハ、女子で無くてハ敎員に不適當な者もありますから、是等の學科にハ女子を敎師とすべきハ勿論であるのです。且つ今の所でハ女學校の敎員は、男女混合の方が宜からうと云ふだけで、其割合は何の位が宜しいか、其邊は甚だ六ケしくて私共にハ解かりません。

是れまで述べ來ッたる所のみにてハ、女子敎育の困難と云べる問題にハ甚だ不適當であつたか、知れぬが、種々熟考しなければならぬ事を皆併せて考へれば、甚だ六ケしい、困難と云ふことになるのです。論旨にハ外れた事のみ申した樣でハあるが、多忙中色々取合せて申したのであるから、意味の通ぜざる事、又卑近に失したる事もあつたかは知れませんが、其所ハ偏に御容赦を願ひます。

（完）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

社告

通信女學十五巻迄賣拂代の事

是迄で通信女學に掲げたるものゝ後より引續きて此方に掲げ候ては從來女學雜誌のみを購讀せられたる方は中途より講義を聞かるゝ譯にて定めし御不滿足と存じ候因て右樣の方々に限り第十五巻迄の通信女學を左の低價にて差上申候

通信女學第一巻より第十五巻迄定價二圓六十錢の處
女學雜誌の讀者に限り
一巻十錢郵税二錢即ち
十五巻を一圓五十錢郵税三十錢にて差上候

但し之は女學雜誌の讀者に限るとゆへ御注文の節女學雜誌購讀者たるの有無を記載せられたく、倘ほ殘本は固より多く之れなく候に付御用の方は可成早く申込れ候方御利益かと存じ候

婦人矯風會書記佐々城豐女譯

婦人言論の自由

一冊十錢　郵税四錢　（新版）

德富猪一郎君評曰く婦人の言論ハ人を屈服するに非ずして人を勸誘するに在り而して其勸誘するや或は淚となり或は笑と爲る然れ共其一泣一笑時に或は千言萬語滔々たる議論に優れるゝと無きにあらず吾人は佐々城姉が此譯の世に出でたるを喜び世の姉妹に此書を一讀せられんとを推薦す云々

巖本善治君評曰く然れども余が此書に於て特に尤も歎賞して措く能ハざる者は本書の著作の由來記にある也記に云く月明の夜妾良人と共に出でゝ逍遙す偶ま會堂に入て共に座に就く時牧師會后の集會に云々此時妾良人の面を窺ふに良人は勃然として立ち反論して之を不可とす妾實に晴天霹靂の思ひありき然れ共直ちに携ふる所の速記用紙筆を取出して則ち良人の論を筆す記して成る所のもの即ち此書なり云々。

諸姉妹乞ふ一讀を賜へ。

交詢案内

（郵券十錢送れ　委細に申來れ　催促する勿れ）

●雇ひたき方（甲）

十二　下婢　年齡廿歳より五十歳迄の基督信者を雇入度者あり

十四　裁縫　年齡廿年より三十年までにして家内の手助となり裁縫を心得たるものを雇ひたし可成は基督信徒を望む但し地方なり

十五　召使　家内の手助けとなり小兒の世話をなすべき年少女子を雇ひたし尤も讀書習筆を學びたき志あるものを望む

十六　召使　重に小供の世話及裁縫等にして家事の手助けとなるべき年少の女子を雇ひたき所あり但官員の御内なり

十七　下婢　二十歳前後の薪水の勞を取る下婢を雇ひたし商家にて家族五人仕事はひまなり月給は一圓以上

●雇はれたき方（乙）

六　奉公　地方師範學校卒業生にて學費に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇へれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし

七　裁縫　年齡廿三にして家内の手助けとならんが爲め內職に裁縫に雇へれ度きもあり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて築地邊ならば通いても宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三　教師　栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても教授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む

十四　洋行　身元慥なる十八歳位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて隨行を願ひたし

一九　召使　裁縫の教授を專にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇はれたし

二〇　裁縫　年齡十四五才にて華族樣か或官員方の御方之内ヘ小間使に雇はれたし最も餘暇に讀書授けくだされば給料は不申受

二四　奉公　年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族樣か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし

二五　裁縫　裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に教師に雇はれたし

二六　學婢　學問篤志なれども資金に乏しきを以て學校又は令孃方のお付きにて餘暇に勉學したき年少女子あり無給にてよろしと

●喜びのめぐみ

十三　家婢甲第十三號は先方にて雇入れになりたり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●通信女學講義錄自第一卷至第十五卷總目錄

第一卷

○通信女學發行の主旨○畧則○女子生理第一回○育兒心得第一回○文學一斑第一回○万國史略第一回○西洋女禮第一回○問答叢話

第二卷

○文學一斑第二回○女子生理第二回○西洋女禮第二回○萬國史略第二回○育兒心得第二回○問答叢話

第三卷

○文學一斑第三回○育兒心得第三回○西洋女禮第三回○女子生理○家內理學第一回○問答叢話○避暑の遊を勸む

第四卷

○文學一斑第四回○家內理學第二回○万國史略第三回○西洋女禮第四回○女子生理第四回○育兒心得第四回

第五卷

○文學一斑第五回○育兒心得第五回○女子生理第五回○家內理學第三回○西洋女禮第五回○万國史畧第四回

第六卷

○文學一斑第六回○地文學講義第一回○育兒心得第六回○西洋女禮第六回○女子生理第六回○家內理學第四回

第七卷

○文學一斑第七回○地文學講義第二回○西洋女禮第七回○育兒心得第七回○家內理學第五回○女子生理第七回

第八卷

○文學一斑第八回○育兒心得第八回○女子生理第八回○和書講義第一回○地文學講義第三回○家內理學第六回

第九卷

○百人一首講義第一回○和書講義○文學一斑第九回○女子生理第九回○子供のはなし○洋書講義第一回○育兒心得第九回

第十卷

○文學一斑第十回○育兒心得第十回○女子生理第十回○百人一首講義第二回○家內理學第七回○地文學講義第四回○子供のはなし

第十一卷

○育兒心得第十一回○女子生理第十一回○百人一首講義第三回○家內理學第八回○地文學講義第四回○子供のはなし

第十二卷

○女子生理第十二回○育兒心得第十二回○家內理學第九回○百人一首講義第四回○子供のはなし○文學一斑第十一回○地文學講義第四回

第十三卷

○女子生理第十三回○育兒心得第十三回○經濟學○百人一首講義第五回○子供のはなし○文學一斑第十二回○眼鏡の話○家內理學第十回

第十四卷

○百人一首講義第六回○婦人病の元因○經濟學○女子生理第十四回○育兒心得第十四回○文學一斑第十三回○家內理學第十一回○小供のはなし

第十五卷

○文學一斑第十四回○婦人病の元因○經濟學○百人一首講義第七回○家內理學第十二回○小供のはなし○育兒心得第十五回○女子生理第十五回

東京々橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

保守新論　毎月廿日一回發兌

第一號本月二十日發兌定價金八錢六ヶ月前金四十五錢府外郵稅一錢郵劵代用一割増但見本は郵劵七錢に換ふ右新論は保守黨中正派の意見を代表し大中至正なる保守主義を以て政界の表に挺立し政治經濟文學等の大現象は擧て痛切論評す

大賣捌所　東京神田區雉子町　**團々社書店**

慈善家諸君に申す

ラマバイ女史著作「High Caste Hindoo Widow」即ち印度高族幼年寡婦の慘狀を記るしたるもの一冊代價一弗三十錢なり女史は之を賣捌ひ其の入金利子を集めて印度に設立する寡婦院の費用と爲さんとす故に米國シカゴ婦人禁酒會出版局に於ては熱心に其賣廣めに盡力して女史の志を扶けんとする也余も亦之が爲に一臂の力を假すを得ば幸甚なるが故に茲に同志者と共に連合して成るべく多數に同書を買求めんと存ず、依りて米國へ注文申込の日限を本月三十一日と爲し、右書籍若干の上實費を明算して更に報告すべし盖し此書は讀むと讀まざるとに非ず寧ろ多く買ふを冀しとする也

京橋區日吉町八番地　女學雜誌社長　巖本善治

新年の御祝詞申納め候　芝南佐久間町二丁目一番地　私立東京女學

始業并女生徒募集

來七日ヨリ始業候ニ付寄宿生ハ其前歸學シ通學生ハ同日ヨリ登學スベシ●本年ヨリ改正規則實行候ニ付寄宿通學生及幼年生高等科生共二百名ノ入學ヲ許ス至急申込アレ

芝南佐久間町二丁目一番地　私立東京女學　校長　伯爵　九田胤子

女子敬愛學校生徒募集

本校ハ主トシテ和洋服裁縫編物及ビ英語學ヲ教授ス但シ時々修身學及ビ婦女日常ノ心得ニ就キ口授スルコトアルベシ亦タ漢學數學ノ教授ヲモ生徒ノ望ニ應ス

芝區兼房町十三番地　女子敬愛學校

慈善産婆學校規則

一、本校は産婆術の普く行はるゝことを望み成るべく多く産婆生及産婆師範生を養成せんことを欲し專ら慈善德行ある上に技て教授することを目的とす故に生徒は常に品行を正しくし道婆の道德を重んじ國民衛生を重ふの念を切ならしむべし而二、して本校は亦有志の徒の中に自由授業するの方法を備ふべし本校産婆術の教授は實地の産術を講じ作産場に就き實地を研究せしむるにあり

三、教授書は朱氏産婆論を用ゆ

科目

解剖學　生理學　姙娠論　産科診察法　攝生法　正規分娩論　正規産婦論　初生兒の扱　異常姙娠論　異常分娩　産婦經過異常附産婆心得實地

四、十八ヶ月を以て卒業の期とす（但學力の優劣に依り此限に非ず）卒業試驗及第のものには本校卒業證書并授業證書を授く

五、講義は毎日にして大祭日及日曜日を休業とす毎年八月一ヶ月間を夏季休業となし十二月廿日より一月十日迄を冬期の休業とす

一、授業料一ヶ月金四拾錢を收むるものとす

一、入學生は入塾通學本人の自由に任す入學者は在京保證人の證書を入るべし

東京麹町區三番町四拾八番地　慈善産婆學校

○明治女學校生徒募集廣告●

○本校第一學期を終りたるを以て新入生徒の入學を許しかつ寄宿生を募る御望の方は至急御申込可有之候但し新入生徒は小學校卒業之者か若くは之と同様の學力を有する者に限る○規則書御望の方は郵券二錢御送附あれ

東京麹町區飯田町一丁目三十二番地　明治女學校

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

同志社大學義捐金募集取扱廣告

今般同志社大學設立ニ關シテ發起者新嶋襄氏ヨリ其主旨ヲ普ク江湖ニ告ゲ同感人士ノ義捐金ヲ募集被致候ニ就テハ各社ニ於テモ其主旨ヲ翼贊シ右義捐金募集取扱候ニ付篤志ノ諸君ハ多少ニ限ラズ金圓相添ヘ各社ノ中ヘ御申込ミ被成候ハヾ取纏メノ上發起者ニ相渡シ同志社大學設立ノ資金ニ充テ可申候

一金圓御寄送ノ向ハ之ヲ受取リタル社ノ新聞雜誌上ニ其金高並ニ姓名ヲ記載シ別ニ受領書ヲ差シ出サズ

一義捐金額ハ拾錢以上ニ限ル

一本年四月三十日ヲ以テ締切期限トス

報知新聞
每日新聞
朝野新聞
東京電報
公論新報
改進新聞
東京朝日新聞
絵入朝野新聞
東京經濟雜誌
基督敎新聞
國民之友
女學雜誌

報知新聞社
每日新聞社
朝野新聞社
東京電報社
公論新報社
三益社
東京朝日新聞社
絵入朝野新聞社
經濟雜誌社
警醒社
民友社
女學雜誌社

發兌				
一月。	五日	十二日	十九日	廿六日
二月。	二日	九日	十六日	廿三日
三月。	二日	九日	十六日	廿三日 三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日

定價

一册。六錢 郵稅。一錢 (但府內無郵稅)
十册。五十八錢 郵稅。十錢 (同前)
半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓六十九錢
一年分 二圓六十錢 府外は 三圓十二錢

廣告

一行 (廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 同 一割引
同 六回以上 同 二割引
十行以上に一割引。二十行以上に二割引。四十行以上三割引
[illegible]

特別廣告は婦女に關する協會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁以上半頁分每に十部の雜誌を注文するの割合と定む

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町東々堂○同西久保川町萬[illegible]堂○同神田區雉子町關社支店 [illegible]

明治二十二年一月二十五日印刷
明治二十二年一月二十六日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichô, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1104
J744

Feb. 2
1889
No 147

女學雜誌

一冊六錢

當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年(第百四拾七號)二月二日發

社説
女子と宗教 第五(儒教)

論説
政治改良に於ける英米婦人の景況(植村正久)

批評
谷間の姫百合

叢話
麻疹の談○最も樂しき事業○佛蘭西辭別の歌

佳傳
破鏈談第一回(晩秋の氣)

小説
理想紳士(月の舎しのぶ)

寄書
文苑(二)(鈴木弘恭大人撰)

新報
當二月中○東京婦人矯風會○學士スピンチル氏、天下の女子○白哲人の禍眼○流行の破船○女子州會議員當撰○不道德なる著書特に小説○英國警戒同衆第三年會○篤志看護婦人會○其他數件

外報
ボストンの學務委員○スペイン皇子の姆○女子の職業○バットレル夫人○行狀の一等賞○ウエルス女大學○英國政壇の婦人

小供談

附録
女子讀本○婚姻説

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY